



みんなの あしたに ハッピーを

Coca-Cola **West**

コカ・コーラウエストグループ CSRレポート2015

Corporate Social Responsibility Report 2015

ハッピーを



ひろげよう

2015年は「コカ・コーラ」を象徴する「コンツァーボトル」が誕生して100周年です。

独自のおいしさとパッケージの組み合わせによって、

「コカ・コーラ」は世界中で愛される存在となり、

今では200ヵ国以上で販売されています。

コカ・コーラウエストグループは日本の人口の約3割を占める

巨大な市場を事業エリアとしています。

私たちは多くのお客さまに満足いただける「商品、サービス」を提供することで、

いつでもどこでも「ハッピー」を感じていただけるように、

ハッピーをひろげる活動をさらにすすめてまいります。

CONTENTS

トップメッセージ	P.3
特集1：次世代に引き継ぐかけがえのない水資源	P.7
特集2：コカ・コーラの自動販売機だからできること	P.9
CSR方針	
■ 方針1.誠実な企業活動	
お客さま満足	P.11
品質保証	P.15
コンプライアンス	P.19
リスク管理	P.20
■ 方針2.人間尊重	
人権尊重と社員の働きがい	P.21
■ 方針3.社会との共生	
地域社会との共生(地域社会貢献活動)	P.25
■ 方針4.環境との調和	
環境推進(地球環境保全・地域環境推進活動)	P.31
コカ・コーラウエストグループ CSR活動実績	P.37
コカ・コーラウエストグループの概要	P.39
第三者意見書	P.43
工場見学案内	P.44

編集方針

本レポートは、当社グループがさまざまな課題に直面する社会に対してどのように貢献できるか、また、地域社会の中で成長し続けるためにどのような活動を行っているかについての考え方や内容を報告するものです。

当社グループの企業メッセージである「みんなのあしたに ハッピーを」に込められている、「あらゆるステークホルダーに対してハッピーを提供していく」という思いを「さらにひろげる」ために、この1年間の活動を分かりやすく紹介しております。

● <http://www.ccwest.co.jp/csr/>



● 報告範囲

対象期間:
2014年1月1日～2014年12月31日
(一部過去と直近の情報含む)

対象会社:
11社(キューサイ株式会社を除く)

発行:
2015年3月

参考ガイドライン:
ISO26000：ISO(国際標準化機構)による社会的責任に関する国際規格
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

Coca-Cola West

TOP MESSAGE

「みんなの あしたに ハッピーを」
地域のみなさまのために
たゆまぬ努力を続けます。

コカ・コーラウエスト株式会社
代表取締役社長

高松民雄



地域とともに半世紀以上

コカ・コーラウエストグループは、日本の人口の約3割を擁する巨大な市場である関西・中国・九州の2府16県で事業を展開する企業です。創業から半世紀以上にわたる歴史の中で、複数のボトラー社の企業統合を経て現在の姿となりましたが一貫して「地域とともに」を基本姿勢として事業活動を行ってまいりました。おかげさまで

みなさまからご理解とご協力を頂戴し、これまで事業を継続することができここにあらためてみなさまのご愛顧に感謝し心から御礼を申し上げます。今後も引き続き飲料を通じて価値ある「商品、サービス」を提供することで、お客さまのハッピーでいきいきとしたライフスタイルと持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

みんなの あしたに ハッピーを

Coca-Cola West

企業理念

飲料を通じて
価値ある「商品、サービス」を提供することで、
お客さまの
ハッピーでいきいきとしたライフスタイルと
持続可能な社会の発展に
貢献します。

CSR基本方針

当社の存在理由であり提供価値であるこの企業理念をステークホルダーとの関係の中でとらえ、当社が果たすべき社会的責任と貢献を明確に示したものがCSR 4つの基本的考え方と7つの重点項目です。2020年のありたい姿として定めたウエストビジョン「お客さまに愛され、株主・地域社会に愛され、社員が愛する会社」を現実の姿とするために、日々の事業活動を行う上での基軸となるものです。

ビジョン実現に向け、ステークホルダーのみなさまに

ハッピーをお届けし、持続可能な社会の発展に寄与するにあたっての基本方針として「誠実な企業活動」「人間尊重」「社会との共生」「環境との調和」の4つを掲げています。さらに「誠実な企業活動」では、①お客さま満足 ②品質保証 ③コンプライアンス ④リスク管理、「人間尊重」では⑤人権尊重と社員の働きがい、「社会との共生」では⑥地域社会との共生、「環境との調和」では⑦環境推進、の7つを重点項目に定めて当社社員の一人ひとりがこの重点項目を意識して日々の仕事に取り組んでおります。

事業の基盤をしっかりと固め、さらなる発展に向かって

価値ある商品・サービスを提供するためには何よりも品質にこだわり、常に安全・安心・フレッシュな商品を提供すること。そして常にお客さまの新しいニーズを見出し絶え間のない革新によって、お客さま満足の向上に挑戦します。また、昨今コンプライアンスに関する企業姿勢がより厳しく問われていますが、あらゆる法令の遵守はもちろんのことコカ・コーラウエストグループ行動規範に基づいた行動を通じて、すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指します。万一事故などが発生した場合には、被害を最小限に留めるよう日々リスク管理を徹底します。

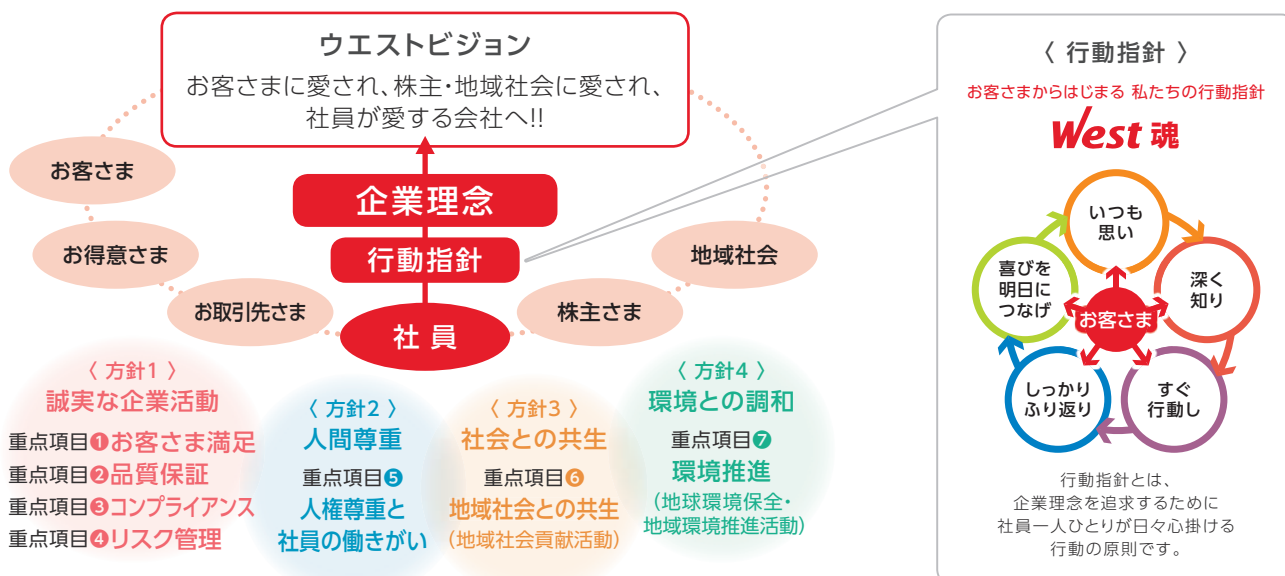
いつの時代においても、経営者に問われるものは社員との強い信頼関係です。社員一人ひとりが仕事に働きがいと誇りを持ち、他の人権についても正しく理解しお互いを尊重しあう企業風土を醸成します。

地域との絆は私たちが永く大切にしてきたもの。これからも本業を通じ、またスポーツ、文化・教育活動、地域貢献活動を通じて地域社会の発展に力を尽くします。

私たちの事業はかけがえのない水資源という自然の恩恵をベースに成り立っています。清涼飲料水を製造・販売する企業の社会的責任として、水資源の有効利用と水資源保護は重要なテーマです。製造プロセスで使用する水の量を削減することはもちろん、使用した水を厳しい基準で再利用し自然界へ還します。製造に使用した同等量の水を100%自然に還元することを目標に工場水源域の涵養林整備、また地域住民のみなさまやNPO団体と協働した草原再生や湛水事業への協力など地下水の涵養にも取り組んでおり、2014年秋にはあらたな涵養林の整備契約を締結することで事業エリア内で100%還元する仕組みを構築して、目標を達成しました。

CSRの基本的考え方と重点項目

企業理念をステークホルダーとの関係の中でとらえ、コカ・コーラウエストグループが果たすべき社会的責任と貢献を示したものです。



基本的な考え方	7つの重点項目	目指す姿
〈方針1〉 誠実な 企業活動 P.11～	 重点項目 ① お客さま満足	● 価値ある商品・サービスを提供するため、安全・安心で優れた品質であることはもちろんのこと、お客さまの新しいニーズを発見し続け、絶え間のない革新によってお客さまの期待を上回る価値ある「商品・サービス」を提供する。
	 重点項目 ② 品質保証	● 調達からお客さまのお手もとに商品が届くまでの各過程において、社員一人ひとりが「品質」を最優先に取り組み、常に安全・安心・フレッシュな商品を提供する。
	 重点項目 ③ コンプライアンス	● すべての法令の遵守はもちろんのこと、社会的責任の視点と良識をもって誠実に行動する。 ● 経営の効率化、透明性向上に取り組むことで、すべてのステークホルダーからの信頼を得る。
	 重点項目 ④ リスク管理	● 会社が抱えるさまざまなリスクに対して発生を予防するとともに、万一、発生した場合に被害を最小化するための行動が迅速・的確にとれるリスクに強い会社を目指す。
〈方針2〉 人間尊重 P.21～	 重点項目 ⑤ 人権尊重と 社員の働きがい	● 一人ひとりが自らの人権だけでなく、他の人権についても正しく理解し、相互に人権を尊重しあい、その共存を図る。 ● 社員と会社の強い信頼関係のもと、社員が仕事を通じて働きがいと誇りを持てる会社を目指す。
〈方針3〉 社会との共生 P.25～	 重点項目 ⑥ 地域社会 との共生 (地域社会貢献活動)	● 「地域とともに」の基本姿勢のもと、地域社会との共生・共栄を強く意識し、地域社会の発展に貢献する。
〈方針4〉 環境との調和 P.31～	 重点項目 ⑦ 環境推進 (地球環境保全・ 地域環境推進活動)	● 事業の成長と環境負荷低減を両立する「地球環境保全」と地域社会における自然環境保全や環境啓発を推進する「地域環境推進活動」の2つの活動を通じて、「環境先進モデル企業」となる。

当社グループのCSRの取り組みは、ザ コカ・コーラ カンパニーが掲げる持続可能性に着目した世界共通の目標の実現にもつながるものです。

ハッピーで持続可能な明日へ

私たちはいま一度初心に立ち返り、CSR7つの重点項目が自らの仕事の中ではどのような行動を指すのかを見つめ直し、それを着実に遂行することで社会的責任を果たすとともに当社の企業価値を高めます。事業活動を通じて社会的課題の解決と価値の創造を目指し、さらに健康で豊かな生活文化をつくること、地球環境を次の世代へと着実に引き継いでいくことが当社の使命であると考えております。ステークホルダーのみなさまの声に常に真摯に耳を傾けながら、ハッピーでいきいきとしたライフスタイルの実現と持続可能な社会の発展に向けてたゆまぬ努力を続けてまいりますので、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「 みんなの あしたに ハッピーを 」

CSRヒストリー

- | | |
|--|--|
| 1989年 クラシックコンサート初開催 | 2006年 さわやか自然の森 森林保全活動開始 |
| 1993年 特別支援学校に情報機器教材贈呈開始 | 2007年 ISO10002 ^{※2} 適合宣言
ワークライフバランス取り組み開始 |
| 1994年 小学校へ一輪車贈呈開始
ファミリーミュージカル初開催 | 2010年 「ecoる/ソーラー自動販売機」導入開始
4側面の国際認証を全工場で取得完了 |
| 1998年 ISO9001を本郷・鳥栖・基山各工場で取得
(以降4側面の国際認証 ^{※1} を各工場で順次取得) | 2013年 「ピークシフト自販機」導入開始 |
| 1999年 エコカー導入開始 | 2014年 「さわやか自然の森」活動などを通じ、
水源涵養量100%を達成
ISO14001を南九州エリア、ウエックスで拡大認証取得 |
| 2003年 災害対応型自動販売機導入開始
北九州さわやかリサイクルセンター稼働開始
市村自然塾九州 開塾 | |
| 2005年 ノンフロン型自動販売機導入開始 | |

※1：4側面の国際認証

ISO9001・・・・・・品質マネジメントシステムの国際規格

FSSC22000・・・・・・食品安全マネジメントシステムの国際規格

ISO14001・・・・・・環境マネジメントシステムの国際規格

OHSAS18001・・・・労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格

※2：ISO10002・・・・・・ご指摘対応の基本原則やご指摘対応プロセスの手順を規定した国際規格

特集1

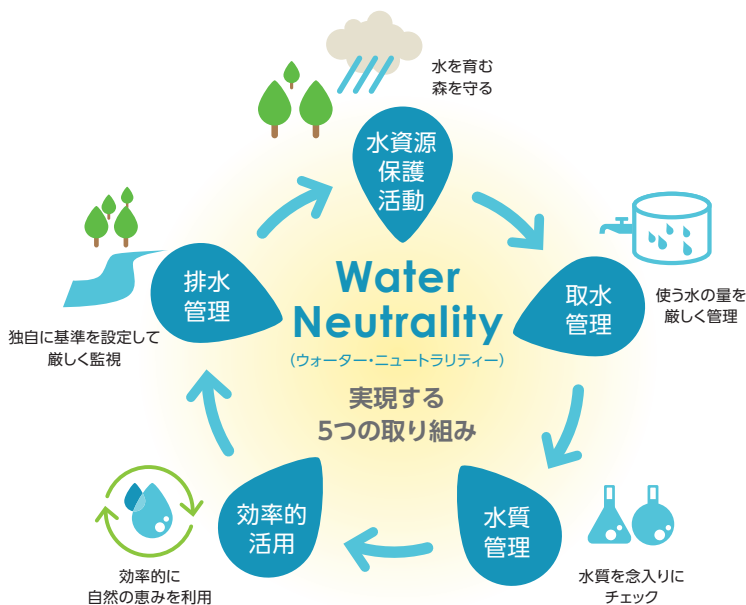
次世代に引き継ぐ かけがえのない水資源

私たちの事業活動は、“かけがえのない水資源”という自然の恩恵の上に成り立っています。
清涼飲料水を製造・販売する企業の社会的責任として、
水資源の有効利用と水源涵養を推進しています。

きょうと、とっとり、ひろしま、えびのの「さわやか自然の森」面積拡大により、 水源涵養面積拡大。目標100%達成。

世界のコカ・コーラシステムでは製品をつくるために使った分の水を自然にかえす「Water Neutrality (ウォーター・ニュートラリティー)」を推進するため、水資源保護活動、取水管理、水質管理、効率的活用、排水管理の5つの側面から水資源を管理しています。

当社グループでは、2013年の製品に使用した分の水を涵養面積として算出した1,491haを目標とした「さわやか自然の森」の拡大に取り組み、2014年には使用した水の124%の涵養面積にあたる1,842haに拡大しており、水源涵養力の高いより健全な森づくりを進めています。



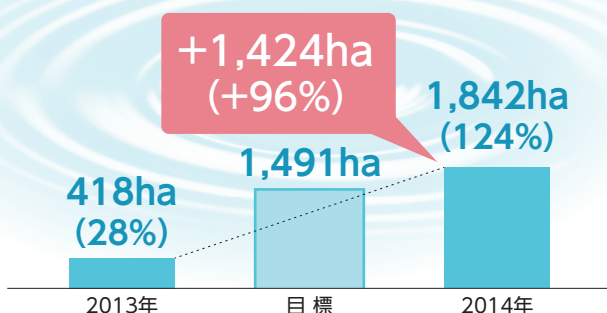
あそ



● 水源涵養活動

工場の水源域を特定し、水量や水質など水に関する問題がないか科学的に分析しています。その上で、水源域の自然環境が持続的に水を育み蓄える力を持ち続けていけるよう、その土地や自然環境の特徴を踏まえながら地域や専門家の方々と力を合わせて次世代へ受け継がれる水源保護活動を進めています。

当社グループの 水源涵養面積拡大



製品になった水 と同等量を涵養



〈主な活動〉

- ・自然の森協定
- ・森林保全
- ・阿蘇草原再生
- ・水田湛水



とす



とっとり



とっとり

● コカ・コーラウエストグループの水涵養活動



ひろしま



きょうと



ひょうご



えびの



えびの城山
さわやか自然の森協定締結

工場水源域の森林を守る 「さわやか自然の森」活動を8カ所で実施

当社グループでは地域の水涵養の取り組みとして、各工場（2009年閉鎖の旧滋賀工場含む）周辺の水源域となる森林を「さわやか自然の森」と名付け、地方自治体と共同管理契約を締結し、水涵養力の高いより健全な森づくり活動を進めています。

環境教育の一環として、水資源保護に対する意識の向上を目的とし、各地域の「さわやか自然の森」にて、年に1回以上、枝打ちや除伐、下草刈りなどを実施しています。2014年は社員とその家族、地域の方々や子どもたち約400名が参加しました。



しが

阿蘇の草原再生への協力

阿蘇の草原を未来に継承するため、水資源の持続的な活用に向けた活動を推進しています

阿蘇の草原は、6本の一級河川の源流域にあたり、約230万人もの人々の暮らしや産業活動を支え、多くの人々に恵みをもたらしています。

このかけがえのない資産である草原の保全・再生を目的として、2005年に地元の団体や行政、研究者などが参加する「阿蘇草原再生協議会」が発足しました。当社グループは、野草地の管理や草原環境の保全に向けて継続的な活動を行っている阿蘇草原再生協議会の、草原維持活動に協力しています。



阿蘇草原

いつでも、どこでも、誰にでも、さわやかさと「ハッピー」を

特集2 コカ・コーラの 自動販売機だからできること

コカ・コーラシステムでは、国内で初めてとなる飲料自動販売機を導入して以来、自動販売機のパイオニアとして常に時代をリードしてきました。

マルチマネー対応自動販売機や環境性能に優れた自動販売機の導入、東日本大震災発生以降も節電対策の取り組みを続けておりその時その時のニーズを読み、どこよりも早く実行してきました。

商品を提供するだけでなく、時代に応じた「ハッピー」を届ける!それがコカ・コーラシステムの自動販売機です。

節電／ecoへの取り組み

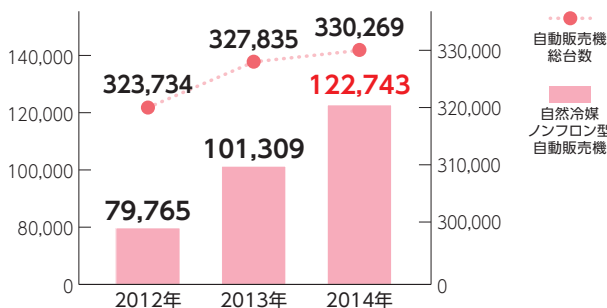
日本の社会にコカ・コーラシステムの自動販売機が登場して約50年。この歴史の中で社会のニーズに応えるためにさまざまな機能を加えて私たちの自動販売機は進化してきました。特に環境への配慮については、温暖化防止・エネルギー削減の取り組みを重視。進化した省エネ技術を追求し、消費電力の削減に挑戦し続けています。

その他、新規投入する缶・PET自動販売機のすべてを2011年より自然冷媒ノンフロン化し、2012年以降は全台にLED照明を搭載しております。また、2013年からは電力使用のピーク時間帯の消費電力削減に貢献する「ピークシフト自販機」を導入しています。

ノンフロン化計画

2011年より計画を加速させ、2020年までに日本国内に設置されたすべての自動販売機を自然冷媒ノンフロン化します。

● 環境配慮型自動販売機の設置台数の推移 (単位:台)



LED照明の自動販売機 全台への搭載

自動販売機の照明には、大幅に消費電力を削減し長期にわたり交換不要なLED照明をいち早く導入。2012年以降はすべての自動販売機へ搭載しています。

ピークシフト自販機

2014年4月に実行された「改正省エネ法」では、8時～22時の時間帯における電気需要の平準化が求められています。「ピークシフト自販機」は、それよりも長い7時～23時の時間帯に最長16時間冷却を停止し、最大時95%の電力を削減しながら冷たい製品を24時間提供することができる自動販売機です。もちろん冬場でもその性能を発揮し最長14時間停止することが可能です。

また、冷媒には地球温暖化への影響が少ない自然冷媒CO₂ノンフロンを使用しています。

「ピークシフト自販機」は、第10回エコプロダクツ大賞「推進協議会特別賞(節電優秀賞)」、平成25年度省エネ大賞では最高賞である「経済産業大臣賞」を受賞しています。

● 消費電力削減のためのさまざまな機能

- | | | |
|---|--|---|
| 断熱材
気密性+断熱性に優れた保温効果の高い真空断熱材を使用。 | 学習省エネ機能
内蔵コンピュータによる売れ行きデータなどを分析し節電機能を制御。 | ヒートポンプ
商品の冷却時に発生する排熱を、ホット商品の加温に利用します。 |
|---|--|---|

「ハッピー」の提供

身近なコカ・コーラシステム自動販売機利用を楽しいものにしていくため、自動販売機を利用したさまざまなウェブ上の取り組みを展開しています。便利であるだけでなく、毎日の生活を楽しいものに変えていくのが、コカ・コーラシステムの自動販売機です。

自動販売機向けAR(拡張現実感)アプリ「自販機AR」を導入

「ピークシフト自販機」にARマーカーを採用し、スマートフォンをかざすことでさまざまなコンテンツを楽しむことが可能になりました。



「ピークシフト自販機」が選ばれている理由(わけ)

最長 **16** 時間
日中の冷却運転を停止

24 時間
いつでも冷えてる

最大時 **95** %
日中の消費電力を削減

- 年間消費電力量削減
- 早く冷える
- 新型LED照明
- 音が静か
- 改正省エネ法対応機種
- 人感センサー搭載
- ノンフロン



ピークシフト自販機

安全・安心のサポート

コカ・コーラシステムの自動販売機サービスは、商品補充から衛生管理まで一括して担当しますので安心してお任せいただけます。

商品や釣り銭の補充作業

品揃えの提案

万全のサポート体制

衛生管理

故障対応

地域貢献型自動販売機

支援型自動販売機

自動販売機で清涼飲料水を購入いただくと、その売上金の一部が地域の社会貢献事業やイベント、団体の運営資金として活用される募金型自動販売機を設置しています。自動販売機を通じてお客さまお得意さまとともに地域社会を支援しており、2014年12月末現在約5,700台設置しています。



災害対応型自動販売機

災害対応型自動販売機は、災害などでライフラインが被害を受けた場合清涼飲料水を無償で提供できる自動販売機です。

また、メッセージボード付災害対応型自動販売機では、災害時の避難場所、地図情報をリアルタイムに確認できます。2014年12月末時点約2,100台設置し、地域のみなさまの暮らしに貢献しています。



災害情報などの発信

清涼飲料水の無償提供

通常時の機能

- ・ 時事通信社からのニュース配信
- ・ 地域情報の配信

利便性の追求

業界初の携帯電話機を活用したキャッシュレス自動販売機の導入(2002年)を皮切りに、おサイフケータイへの対応(2004年)、そしてマルチマネーに対応した自動販売機の導入(2007年)と、キャッシュレス対応において、業界をリードしてきました。電子マネーの自動販売機対応を引き続き全国で順次展開し拡大していくことで、お客さまの利便性向上を目指していきます。



Policy

01

方針1.誠実な企業活動

重点項目①

お客さま満足

お客さまのハッピーのために
安全・安心で優れた品質であることはもちろんのこと、
お客さまの新しいニーズを発見し続け、絶え間ない革新によって
お客さまの期待を上回る価値ある商品、サービスの提供に取り組んでいます。

基本方針

私たちコカ・コーラウエストグループは、お客さまのご満足実現を、最優先すべき判断基準として位置づけ、企業活動を行ってまいります。

私たちは、お客さまの視点に立ち、お客さまの声を積極的に企業活動に活かすことで、常に「おいしさ」「便利さ」「楽しさ」「安心」を提供し続けると共に、更なるお客さまのご満足を徹底して追求します。

行動指針

- お客さまのお問合せ・ご指摘には迅速かつ適切に誠意を持って対応します。
- お客さまに安心して飲んでいただける、安全な商品を提供します。
- お客さまの声を積極的にお聞きし、ニーズに合った新鮮で高品質の商品・サービスを提供し、より高いご満足が得られるよう、課題の解決、商品・サービスの改善に努めます。
- 社会に対する責任として、関係法令および社内の自主基準を遵守いたします。

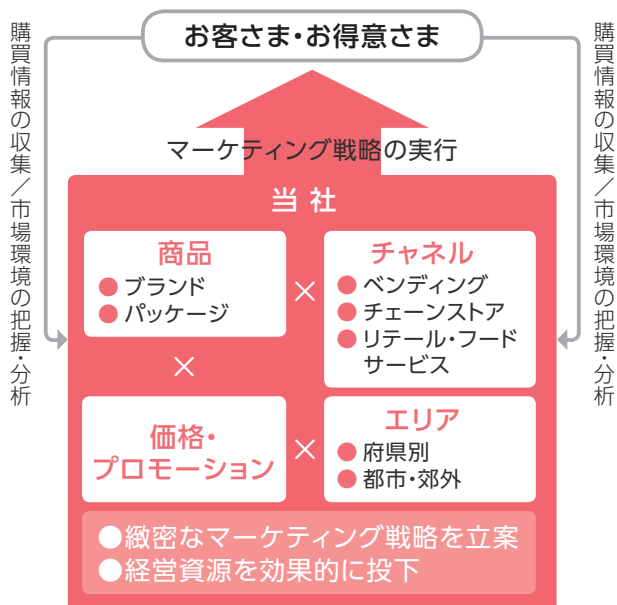
項 目	2014年の主な活動実績
お客さま満足の向上	・ ISO10002事業所監査の実施 ・ 外部評価機関によるお客さま応対品質調査の実施 ・ 電話応対コンクールへの参加

営業活動の状況

営業戦略の概要

各販売チャネルにおいてセグメントを府県単位まで細分化し、お得意さまや他社の状況に応じてマーケティング費用を効果的に投下し、緻密なマーケティング戦略を実行することで、売上高・利益の増加をともなう販売数量・マーケットシェアの拡大を図っています。

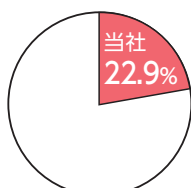
具体的には、各エリア（府県・都市）において、お客さま・お得意さまや他社の状況を見極めた上で、注力する商品カテゴリー・パッケージと適切な価格を明らかにし営業活動を展開しています。



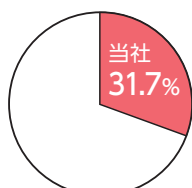
事業エリアの状況

当社は、炭酸飲料、缶コーヒーなど多くの主要なカテゴリーにおいてマーケットシェアNo.1で、清涼飲料業界No.1の地位を確立しています。

■2014年 手売りマーケットシェア (除く自動販売機) ■2014年 屋外自動販売機マーケットシェア



出典: ㈱インテージ「ストアオーディット」



出典: ㈱マクネット (調査期間: 2014年5月～6月)

3つの販売チャネルでの取り組み

当社グループは販売チャネルごとに専門体制を整え、お得意さまと協働しさまざまな活動を行っています。社員一人ひとりが飲料のプロとしてお客さまに付加価値を提供することを目指しています。



① チェーンストアでの取り組み

チェーンストアではスーパーマーケットやディスカウントストアなどにおいて、店舗の業態やお客さまのニーズに沿った品揃えや、季節・行事に合わせた販売促進策のご提案を実施しています。



活動事例

商品を通じてお客さまに楽しんでいただける演出や提案を行っています

スーパーマーケットではクーラーやラックなどの販売什器を活用し、惣菜売り場では茶系の商品をレジ売り場近くには飲みきりサイズの商品を陳列するなど、販売スペースに応じたパッケージ商品の展開を強化しお客さまに求められる商品をすぐに手にしていただける売り場づくりに注力しています。また催事場で各種ブランドのキャンペーンに合わせた大規模な商品陳列や、季節に応じたディスプレイを行うことで、お客さまが商品を楽しくお買い求めいただけるよう工夫を凝らしています。



② ベンディングでの取り組み

お客さまからの自動販売機設置に関するご相談、ロケーションやご要望に応じたご提案をはじめ自動販売機を設置いただいた後の飲料補充やメンテナンス等、自動販売機に関するすべてのサービスを担当しています。

また電子マネーへの対応や省エネ性能に優れた自動販売機、地域社会に貢献する自動販売機等を提供し、さまざまなお客さまのご要望にお応えいたします。



活動事例

設置場所に応じた、魅力ある自動販売機づくりを行っています。

オフィスや工場など屋内を中心に自動販売機の設置活動を強化しました。また売上情報の収集・分析を強化し、自動販売機の設置場所に応じた最適な品揃えを提案したり自動販売機限定のプロモーションを実施することで、お客さまにとって魅力ある自動販売機づくりを行っています。また、改正省エネ法対象事業所に対して「ピークシフト自販機」を活用した節電のご提案を実施しています。

自動販売機メンテナンス業務

24時間販売可能な自動販売機はお客さまのニーズに合わせさまざまな場所に設置されています。いつでもどこでもだれにでも安心してご購入いただけるように多くの経験と知識を備えた社員が機器メンテナンスを行っています。

- ・オペレーション担当者と機器サービスマンとの連携による故障の削減
- ・自動販売機の不具合の速やかな復旧
- ・自動販売機の予防点検（機械内の清掃、故障につながる劣化部品の交換等）
- ・自動販売機の清掃美化活動
- ・職場での勉強会、技術研修会への参加を通じた技術力の向上

③ リテール・フードサービスでの取り組み

酒販店など、さまざまな業態のお得意さまに売り場づくりのご提案を実践

● リテールサービス

売店や食料品店などの一般小売りマーケットをはじめ多岐にわたる業種・業態を担当しています。売店といっても交通・職域・学校・病院と購入されるお客さまの飲用目的、飲用シーンはさまざまであり、飲用機会ごとに最適な商品（容器・容量・価格）と販売方法を提案しています。



活動事例

ロケーションに応じた、魅力ある売場づくりの提案を行っています。

オフィス内で働く幅広い年齢層のお客さまに満足していただくため、人気商品を中心に多様なブランド、パッケージを手に取りやすいように工夫し、常に魅力的な売場づくりを心掛けています。

レストランやレジャー施設など、店舗に応じたさまざまな売り方や訴求方法のご提案を実践

● フードサービス

フードサービスは、HORECA*業態に加え、映画館・カラオケなどのレジャー施設のお得意さまを主として担当しています。シロップ商品から業務用パッケージ商品まで幅広い商材を業態や店舗規模に応じて使い分け、さまざまな売り方やその訴求方法を提案することで、お得意さまとのパートナーシップ強化に努めています。

※HORECA:ホテル・レストラン・カフェの頭文字



活動事例

飲食店さまへ魅力あるセットメニュー等の提案を行っています。

HORECAではパッケージ自体が陳列、提供されることは少ないため、売り方と見せ方が重要です。セットメニューやほかの清涼飲料水とのミックスドリンクメニューの展開などによるブランド訴求を図り、最新のトレンドを捉えながら、リピートと話題性につながる販売促進の提案を行っています。

お客さま満足向上に向けた取り組み

● ISO10002 PDCAサイクル



コカ・コーラウエストグループでは、ISO10002*のPDCAサイクルによるお客さま満足の向上を目指しています。

お客さまから頂いた声を積極的に企業活動に生かすことがお客さまのご満足の向上につながると考え、社内で共有し、我々に対するお客さまのご要望やご期待をしっかりと把握し、安全で安心できる商品や求められるサービスの提供に向け、改善活動に取り組んでいます。

※ISO10002：ご指摘対応の基本原則や、ご指摘対応プロセスの手順を規定した国際規格

お客さまの期待に応えるために

お寄せいただいたお客さまの声は私たちへの期待の表れと捉え、グループ全体で円滑に運営できる体制を構築しています。ご指摘対応の現状を常に把握し、そのプロセスを的確に評価することでコカ・コーラシステムにおけるISO10002 (JISQ10002) 体制の継続維持・強化を図っています。

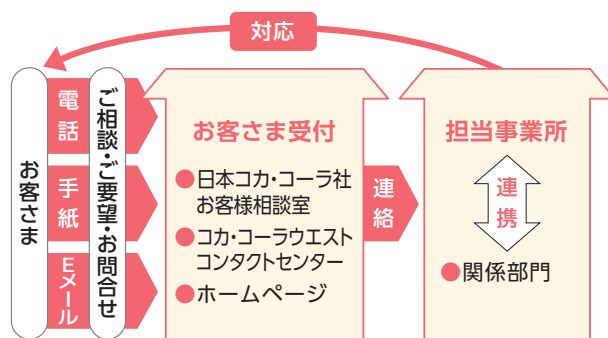
コンタクトセンターでは、お客さま満足の向上のために対応品質の向上を重要なテーマと位置づけ、体制の構築や教育・研修をはじめ、さまざまな取り組みを行っています。

その一つとして応対スキルおよびコミュニケーターのモチベーション向上を目的とし、公益財団法人日本電信電話ユーザ協会主催の「電話応対コンクール」に参加しています。

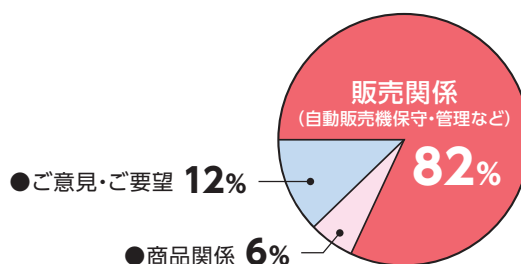
また外部機関による応対品質評価を定期的実施し、現状の把握と課題点の洗い出しを行い、改善策を実行することで、さらなるお客さま満足の向上に努めています。



● お客さま対応フロー図



● お客さまからのお問合せの内容



Policy

01

方針1.誠実な企業活動

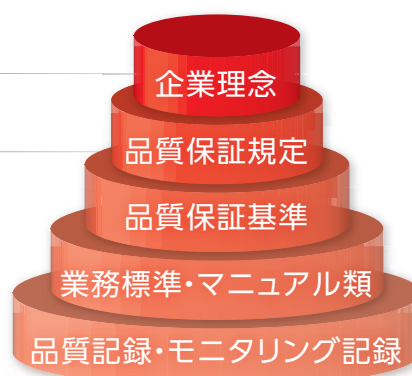
重点項目②

品質保証

コカ・コーラウエストグループに勤務するすべての社員が、「品質」を最優先事項として高品質のオペレーションを実践することにより、お客さまに、常に安全・安心でフレッシュな商品を提供し、業界ナンバー1の信頼を獲得することを目指した取り組みを続けています。

コカ・コーラウエストグループ品質保証基本方針

当社グループでは品質保証基本方針を制定しています。この品質保証基本方針は当社がたゆまぬ品質保証活動を実践し、お客さま満足の向上に努めていくことを明らかにしたものです。



品質保証基本方針

- ・当社グループに勤務するすべての者が、「品質」を最優先事項として日常業務を遂行する。
- ・各部門がそれぞれの役割と責任を認識して、お客さま起点の品質管理を実践する。
- ・すべてのステークホルダーから当社グループの品質保証に高い評価を頂くことを目指す。

項 目	2014年の主な活動実績
品質管理活動のモニタリング	・製造工場や物流倉庫での品質監査の実施 ・市場での製品鮮度および品質管理状況の調査
品質保証体制の強化	・製造・物流・営業等、各部門との品質会議の開催
高品質のオペレーション	・新任者向け基礎教育や品質管理従事者向け専門スキル向上のための研修の実施



マネジメントシステム「KORE」

コカ・コーラシステムでは、独自のマネジメントシステム「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」のもと、世界共通のオペレーション管理を行っています。

原材料の調達から製造、物流、販売を経てお客さまに商品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、厳しい基準を自ら課すものとなっています。

国際規格に則った品質管理システム

製造工場ではISO9001^{※1}、FSSC22000^{※2}の国際規格の認証を取得し、厳格な品質管理体制のもと製造しています。合わせて、品質の基盤となるOHSAS18001^{※3}、ISO14001^{※4}の認証も取得しています。

また工場出荷後の物流(保管、輸送)、販売においても商品の品質を維持し、高品質な商品をお客さまにお届けできるよう、品質管理を行っています。

※1：ISO9001・・・品質マネジメントシステムの国際規格

※2：FSSC22000・・・食品安全マネジメントシステムの国際規格

※3：OHSAS18001・・・労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格

※4：ISO14001・・・環境マネジメントシステムの国際規格

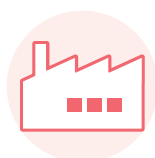
お客さま起点の品質保証

「コカ・コーラウエストグループ品質保証基本方針」のもと、原材料調達、製造、流通、販売・サービスに至るすべてのプロセスで、全社員が常に品質の確保・向上に取り組んでいます。



〈調達〉

厳正な品質基準に基づいた原材料を使用しています。



〈製造〉

確かな品質をお届けするために品質管理システムの遵守と品質管理技術の向上に努め、製品の安全性確保を図っています。



〈保管・輸送〉

工場で製造された商品を高品質のままお届けできるように丁寧な取扱いや温度管理を徹底しています。



〈お客さま〉

お客さまからのご意見・お問合せを改善活動につなげています。



〈販売(店舗・自動販売機)〉

お客さまに常に安全・安心・フレッシュな商品を提供できるように店舗や自動販売機における商品管理に努めています。



調達・製造

原材料の厳正な管理

製品に使用する水および原材料は、国内の基準とコカ・コーラシステムが世界共通で適用している独自のマネジメントシステム「KORE」の品質基準に基づき、社員が一つひとつ厳正にチェックし、安全性に問題ないことを確認しています。



製品の安全性について

製造工場においては、厳密な衛生管理が行われています。中でも天然素材を使用するお茶やコーヒー飲料は、アセプティック（無菌）充填ラインの導入によって、充填・密封工程における微生物の混入をシャットアウトし、洗浄度の高い環境で製造しています。

品質管理

すべての工程において確認検査を行い製品の品質を確認しています。賞味期限の印字や製品液の量、ラベルの位置やキャップの巻締具合など、まずは検査機で判別を行い排斥された製品を人がさらに確認する、人と機械のダブルチェックで行っています。

また社内で資格認定された検査員による官能検査、理化学検査、外観検査を行うなど徹底した品質管理を行っています。



食品安全への取り組み

すべての工場ではFSSC22000を取得しており、各製造工程においてHACCP手法を用い、原材料受け入れ、調合、充填といったそれぞれの工程における重要管理ポイントを設定し、管理しています。

また従業員の入室の際は、手洗い、専用服や靴への着替え、エアシャワー通過を義務付けています。



継続的な改善活動

基本的な5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の取り組みをはじめ、工場管理部門と品質保証部門による工場チェックを定期的実施するとともに、業務そのものを「見える化」することで継続的な改善に積極的に取り組んでいます。

またOE（Operational Excellence）活動を通じて、生産活動における無駄や非効率を徹底的に洗い出して、それらを排除することにより優れた生産現場の実現を目指しています。





輸送・販売

供給・物流管理

営業部門とSCM部門が密に連携を行うことで、お客さまのニーズに柔軟に対応できる生産・物流体制を構築しています。いつ・どこで製造した商品がどこに・どのくらい在庫としてあるかをシステム上で把握し、過剰な生産・在庫を抑制することで常にフレッシュな商品をお客さまに提供できる体制を構築しています。

また物流面においても、システムによる正確な賞味期限管理や保管温度の管理、丁寧な取扱いによる商品の破損防止等の活動を行い、安全・安心な商品を提供できるよう努めています。



販売管理

お客さまに安全・安心な商品をお届けするために、店舗においては当社とお取引いただいている得意さまと協力して売り場や在庫商品の日付や商品のチェック等を実施し商品管理に努めています。

また自動販売機においては、商品1本1本を丁寧に取扱うとともに賞味期限管理を徹底しています。



徹底した衛生管理

ディスペンサーやカップ式自動販売機は、販売機内でシロップやパウダーを商品にして販売しているため徹底した品質管理が求められます。

当社グループでは独自の「社内認定制度」を設け、認定を受けた専任の担当者が衛生管理をはじめとした品質管理業務を行っています。

●各階層の資格概要

QC最高位資格……	QCマスタートレーナー	★★★	高度な技術と幅広い専門知識を有し、品質管理向上に向けた発信およびQCトレーナーの育成・認定を行う
QCエンジニアの トレーナー資格	QCトレーナー	★★	豊富な経験と高度な技術を有し、品質管理業務のリーダーとしてQCエンジニアの育成と認定を行う
QC業務必須資格……	QCエンジニア	★	品質管理業務に従事するための必須資格。毎年認定試験に合格した者のみエンジニアに認定される

トレーサビリティ

お客さまにお届けする一本一本の商品を責任もって遡及する仕組みをもっています。

原材料管理記録、工程管理記録、流通管理記録等、工程の履歴情報を必要に応じて迅速に確認できる仕組みで、いつ、どの工場でどのように生産・流通されたかを把握できます。

コンプライアンス

すべての法令の遵守はもちろんのこと

社会的責任の視点と良識を持って誠実に行動するとともに
経営の効率化、透明性の向上に取り組むことで、
すべてのステークホルダーから信頼していただける会社を
目指しています。

コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

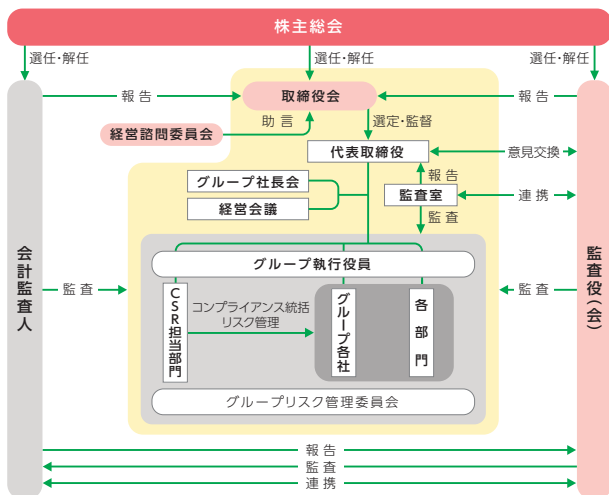
経営の効率性・透明性を向上させ、「株主価値」の増大に努めるため、コカ・コーラウエストグループでは効率性・透明性のある経営体制を整えています。主な特徴およびコーポレート・ガバナンス体制は、以下のとおりです。

【主な特徴】

- 監査役(会)の設置
- 取締役の任期短縮(1年)
- 経営諮問委員会*設置

※外部の有識者から適切なアドバイスを受けるために設置した取締役会の諮問機関

●コーポレートガバナンス体制図



コカ・コーラウエストグループ行動規範

「コカ・コーラウエストグループ行動規範」および「コカ・コーラウエストグループ行動規範ガイドライン」を定め、企業理念の実現のために社員一人ひとりが法令遵守に努めるとともに社会的良識を持った誠実な行動を心掛けています。

またコンプライアンス、リスクマネジメントの取り組みにあたっては、会社法に基づいて定めた「内部統制基本方針」に則っています。

コカ・コーラウエストグループ行動規範

- **お客さまに対して：**私たちは、常にお客さまの立場に立って行動し、お客さまのご満足を追求します。
- **お得意さまに対して：**私たちは、お得意さまをお客さまのご満足を実現するためのパートナーとして大切に、お互いの繁栄を目指します。
- **お取引先に対して：**私たちは、お取引先との公正で対等な取引を通じ、お互いの共存をはかります。
- **社員に対して(会社と社員・社員間)：**私たちは、職場のすべての人たちがいきいきと働くことができるように、お互いの考え方や立場を尊重します。
- **株主に対して：**私たちは、健全かつ透明性のある経営に努め、企業価値を高めます。
- **社会に対して：**私たちは、企業市民として社会的な責任を果たし、より豊かな社会の実現に貢献します。

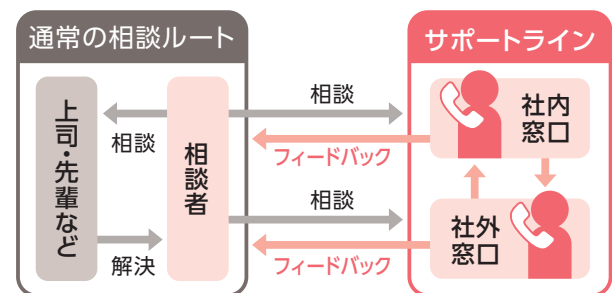
内部通報制度

健全な企業風土を実現するために、相談者が利用しやすい「コカ・コーラウエストグループコンプライアンスサポートライン」を設置し、よりよい職場環境づくりに努めています。

この制度は「コカ・コーラウエストグループコンプライアンスサポートライン運用規定」に基づき、調査・検討を行い、適切に対応します。

また通報などに関する秘密保持と通報等を行った者が不利益な扱いを受けないことが保証されています。

● サポートラインのフロー図



購買方針

当社グループでは、調達業務を行うにあたっての基本姿勢・活動指針、守るべきルール等を明文化した「購買の基本原則」を制定し、公正で透明性の高い調達活動を推進しています。

また、原材料の調達については、ザ コカ・コーラ カンパニーにより認定されたサプライヤー（原材料の供給元）から行うことで、コカ・コーラ社商品の世界的に統一された高い品質の保持に努めています。

リスク管理

会社が抱えるさまざまなリスクに対して発生を予防するとともに、万一、発生した場合に被害を最小化するための行動が迅速・的確にとれる「リスクに強い会社」を目指しています。

リスク管理体制

当社グループはあらゆるリスクの予防と緊急事態の際に迅速かつ適切に対応できるよう「コカ・コーラウエストグループリスク管理規定」を定め、リスク管理体制を整備しています。

リスク予防活動

リスクの顕在化を未然に防ぐため社員全員参画のもとでリスクを洗い出し、経営面、管理面および第一線の社員が働く業務面での対策についてそれぞれにアプローチした予防活動計画を策定し実践しています。

危機発生時の対応

危機が発生した際、迅速な連絡と報告および確実な対応が行えるように職制に応じた役割を明確にしています。また、製造事故、自然災害などさまざまな事象を想定したシミュレーショントレーニングを会社・階層別を実施しています。

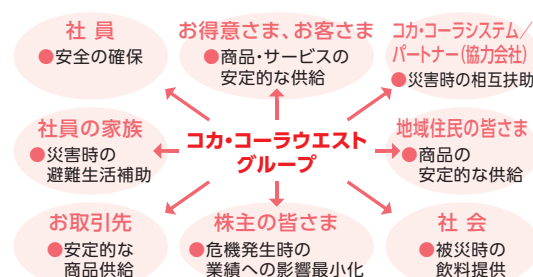
BCP(事業継続計画)の策定

大規模災害に備えたBCP(事業継続計画)

東日本大震災を起点として、大規模災害発生時に社員と家族を守り非常時にも確実に製品を消費者に届けるという清涼飲料メーカーとしての社会的責務を果たすため迅速な事業復旧を可能にするBCPの策定を進めています。

BCPの基本姿勢

お客様さまやお客さまをはじめ、社員や地域社会などすべてのステークホルダーへの責任を果たすために、基本姿勢のもとで平常時の備えから初動対応、事業復旧までを策定範囲として取り組んでいます。



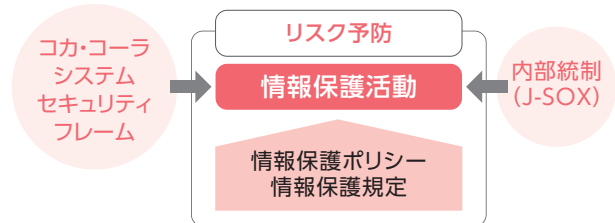
情報保護活動

情報保護への取り組み

情報保護の活動はリスク予防活動の一環です

当社グループでは、リスク予防活動の一環として情報保護活動*に取り組んでいます。また、情報保護に関するポリシーや規定、手順書類を整備し、内部統制(J-SOX)やコカ・コーラシステムのセキュリティフレームとの整合性を図っています。

※情報保護活動:企業の秘密情報や個人情報などが、不正に社外に流出することを防ぎ、コーポレートブランドの失墜やお得意さまの信用低下を未然に防ぐ活動。



教育・啓発

グループ全体を包括した取り組み

企業理念・行動規範・業務に関わる重要な法令について、当グループ社員だけでなく業務委託会社(パートナー・協力会社)社員を含むグループ全体の教育・啓発を行っています。

またこれらを周知徹底するため、集合研修や社内イントラネットを活用した学習ツールより理解度浸透とレベル向上を行っています。

重点項目⑤

人権尊重と 社員の働きがい

当社グループは、仕事を通じて社員のやる気を引き出しやりがいを高め、社員の充実した生活を支援することを人事マネジメントの基本方針としています。そのためにチャレンジし、成長しようとする個人の能力開発と発揮の機会を提供し、属性に拘らず個人の意欲と多様性を尊重した人材の活用を実施していきます。また役割や成果、能力を適切に評価し、すべての社員が仕事とプライベートを両立させながら働ける環境づくりを目指しています。

項 目	2014年の主な活動実績
人権尊重	・人権研修の実施(新社員、管理職、職場内など) ・エリア所属長 現地研修の実施 ・人権に関する情報共有(社内報・イントラネット) ・社長からの人権メッセージ発信
人材育成	・自立支援および長を鍛える研修の実施 ・営業力強化研修の実施
ワークライフバランスの推進	・Happiness会議の開催による職場環境の改善 ・両立支援サイトを通じて制度や関連情報の周知
女性の活躍推進	・リーダー育成プログラムの実施 ・営業職への配置促進(2013年度より実施中) ・部門長、所属長向け「女性活躍推進研修」の実施 ・若手営業社員情報交換会の開催
労働安全衛生への取り組み	・定期健康診断後の事後措置および保健指導 ・季節性疾患、流行性疾患に対する啓発活動と注意喚起 ・ストレス簡易調査(セルフチェック)の実施 ・危険予知トレーニング(KYT)ツールの配信 ・車両の安全運転教育の実施

人権尊重

人権が人として固有の権利であるという考えのもと、一人ひとりが自らの人権だけでなく他の人権についても正しく理解し、相互に人権を尊重しあい、その共存を図っていくことが大切であると考えます。そのため人権問題を自ら課題として受け止め、他人を思いやり、常に相手の立場に立った行動ができる社員育成および活力ある健全な職場環境づくりを目指しています。

人権啓発推進への取り組み

職場や家庭社会を通じて多くの人びとと知り合い、互いに関わりあう中で個を尊重し多様性を活かして全員が健康で幸せに暮らしていくために、当社グループが会社経営を行う前提、基盤に位置づけているのが「人権啓発活動」です。そして、同和問題をはじめとして在日外国人問題、障がい者問題、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント問題など、さまざまな人権問題に積極的に取り組むため、人権啓発推進要綱を定めています。

●推進体制（2014年9月1日現在）

人権に関するグループ意思決定機関として社長を委員長とし、役員、グループ会社社長を委員とした「コカ・コーラウエストグループ人権啓発推進委員会」を設置し、推進を図っています。

主たる活動内容	グループ人権啓発推進要綱の審査・承認 年度毎のグループ人権啓発推進活動の審査・承認 12月の人権週間に合わせて開催する「コカ・コーラウエストグループ人権啓発講習会」の主催
開催頻度・時期	1月／委員会の開催 議題：①グループ人権啓発推進要綱の審査・承認（必要に応じて） ②当年度のグループ人権啓発推進活動の審査・承認 6月／委員会の開催 議題：当年度のグループ人権啓発推進活動の進捗確認 12月上旬（人権週間内）／コカ・コーラウエストグループ人権啓発講習会の実施（主催）

人材育成

人材育成のための3つの評価指針

社員の能力や成果に応じて正しい処遇で報いるため、「業績管理・評価制度」「人事評価制度」「適性評価制度」の3つの指針を定めています。これらの評価を総合的に分析し、各々のキャリアアップを支援しています。

業績管理・評価制度……W-Compass

組織の成果を測定し、人事評価とのゆるやかな連動性を設ける。

人事評価制度……W-Challenge

業績向上と人材育成を第一義の目的とし、目標に対する達成度を測定して個人の成果として認定する。

適性評価制度……W-Watch

社員の仕事への適性、所属長としての適性、キャリアデザインなどを測定する。

人事評価制度について

当社グループの人事評価制度（W-Challenge）は「人材育成」と「業績向上」を目的としており、グループの企業理念を具現化し、「ウエストビジョン」を実現するための仕組みの一つです。

仕事の結果と業務プロセスを測定する「目標チャレンジシステム」、そして社員の行動を測定する「行動チャレンジシステム」を通じて個々の能力を多角的に評価し、社員一人ひとりの活動（目標）が経営全体の活動（目標）に結びつくように推進しています。

●目標チャレンジシステム

社員一人ひとりのその年の業績や活動を公正に評価する仕組みで、毎年、各々がチャレンジングな目標を掲げ、それを達成すべく努力を積み重ねることで業績の向上と自己成長につなげる取り組みです。

評価に関する面談を年間4回実施することで、定期的に目標課題の達成度合いを確認しより納得性の高い評価を実現します。

●行動チャレンジシステム

社員に求める発揮行動を明確に提示し、中長期的見地から社員一人ひとりが「お客さま起点（ステークホルダーのみなさまの考え方・行動のもとになること）」を意識した行動の発揮を安定的・継続的に実現していく取り組みです。

キャリア開発の取り組み

コカ・コーラウエストグループの求める人材像である「経営目標に連動した組織目標に果敢に挑戦し、期待される結果を出す人材」の育成を目指し、社員教育に取り組んでいます。その内容は、自らの実行力を強化するための「自立を促す教育」と、組織の目標達成をリードするための「長を鍛える教育」の2つの柱としています。

「自立を促す教育」として、階層別にステップアップするために必要なスキルや知識習得のための研修を実施、さらに通信教育を中心とした自己学習機会の提供も行っています。「長を鍛える教育」として、部門長・所属長の組織目標を達成させる能力、メンバーを育成する能力を強化する研修を行っています。

また、各部門・グループ各社にて業務遂行に必要な専門的知識やスキルを習得する教育を行っています。



ワークライフバランスの推進

社員のやりがいを高め、充実した生活を支援するため、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を支援しています。

育児・介護とも法定を超えた制度を導入し、また、社内イントラネットに「仕事と生活の両立支援サイト」を設け、育児・介護支援に関する社内制度や関連情報の周知および社員相談窓口として活用しています。その取り組みのベースとなるのが、次世代法に基づくコカ・コーラウエストグループ「第三期次世代育成支援行動計画」です。

コカ・コーラウエストグループ 「第三期次世代育成支援行動計画」

基本方針

コカ・コーラウエストグループは少子化対策・今後の労働力の確保・消費人口の拡大を目的として、「次世代育成支援対策」に積極的に取り組みます。

計画期間

2011年4月1日～2015年3月31日(4年間)

※2015年4月1日以降の行動計画策定予定

内容

① 仕事とプライベートの充実を図るための取り組みの推進
メリハリのある働き方を推進し、育児やプライベートに費やす時間を増やします。

② 社内制度および活用事例の周知

社内イントラネット上へ専用データベースを作成し定期的な情報発信をします。

男性の育児参加を支援

育児に関わりたいと考える男性社員が増えるように、社員の意識啓発と社内制度の周知を図り、グループ全体で男性社員の育児参加を推進しています。

取り組み方針

育児休業は無給扱いとなるため、「男性社員が取得するには経済的に取得が難しい」という場合、積立年金や年次有給休暇を取得して育児に関わるという選択肢も広げています。また、男性社員の育児休業取得事例を社内イントラネット上で紹介し、男性社員が育児に参加することが特別なことではないという社員意識の醸成を図っています。

TOPICS

子ども参観日を開催

社員の子どもが実際に働く親の姿を見て、家族のコミュニケーションや絆を深めるとともに、職場の上司や同僚へ育児に対する理解を深めることを目的に「子ども参観日」を開催しています。2014年8月1日(金)、本社(福岡市)にて、小学1年生から6年生までの社員の子ども18名が参加し、コカ・コーラ社製品を使ってのおやつづくりや名刺交換、印刷体験など、職場での1日を体験しました。



女性の活躍推進

『コカ・コーラウエストグループ 人事マネジメントの基本方針』に沿って、「社員の意欲と多様性を尊重し、属性によらない人材の活用を行ないます」の具現化を行っています。

個を尊重し、社員一人ひとりが能力・資質に応じた職位・職種に就き、働きがい・やりがいを持って仕事をし、業績に貢献していくことを目指し多様性推進の試金石である女性社員の活躍を推進しています。

取り組み方針

多様性を活かす組織となり、お客さまの期待を上回る商品・サービスを提供し続けます。

- ①女性社員の育成および意識変革を促し、指導的役割を担うリーダー職以上の女性社員の増加を目指す。
- ②女性社員の能力を活かせる職種に、配置の促進と定着を図る。
- ③性差によらず、個々のアイデアや価値観を尊重し、全社員が最大限に能力を発揮できる風土の醸成を推進する。

取り組み内容

① 女性リーダー育成プログラム

女性リーダーの増加を目指し、一般職の女性を対象にOJTを中心とした「女性リーダー育成プログラム」を実施しています。

② 新卒女性社員の営業職への配置促進

若い頃からお客さま起点の行動と経験を積ませ、女性営業社員として活躍していくことを目指し、2013年度より女性の新卒採用比率を高め営業職への配置を推進しています。

③ 若手女性営業社員情報交換会

女性営業社員の育成およびモチベーションの向上を図るため「若手女性営業社員情報交換会」を開催しています。情報交換会では、女性ならではの悩みや、仕事の壁などを共有。また、活躍している先輩女性営業社員（ロールモデル）に自らの経験を語ってもらい、若手女性営業社員のキャリアビジョン形成を支援しています。



④ 上長を対象とした「女性活躍推進研修」

ダイバーシティ経営の試金石である女性活躍推進の意義や重要性の理解を深めていくことで、所属員の指導・育成に活かします。



⑤ 女性社員の活躍事例の周知

社内報およびグループイントラネット上で、活躍している女性社員の働く姿や仕事と生活の両立に対する考え方を紹介し、グループ全体で女性社員の活躍を推進する意識の醸成を図っています。

労働安全衛生への取り組み

「社員が心身ともに『健康』『安全』に働くことが事業活動を行う上での最優先事項」であるとの考えのもと、職場における社員の「健康と安全」を確保し、快適な職場環境をつくるための取り組みを行い、「健康管理」「労働災害管理」「車両事故管理」の3つに分類して施策を展開しています。

健康管理

すべての社員を対象に心と身体の両面から健康の保持・増進に努め、「疾病の早期発見・早期治療」「病気にならない心身づくり」を推進する活動を行っています。また、心のケアを充実させるためメンタルヘルスへの取り組みを強化しています。

● 具体的な取り組み

- ・ 定期健康診断後の事後措置および保健指導
- ・ 季節性疾患、流行性疾患に対する啓発活動と注意喚起
- ・ 自身のストレス状態を把握するためのストレス簡易調査（セルフチェック）
- ・ メンタル不調者を対象とした職場復帰支援

労働災害管理、車両事故管理

事故を未然に防止するために「不安全行動の排除」「不安全状態の除去」をキーワードに活動しています。

職場全体での安全意識の向上や社員一人ひとりの安全行動・運転の定着への取り組みを行い、各職場での「事故ゼロ」を推進しています。

● 具体的な取り組み

- ・ 危険予知トレーニング(KYT)ツールの配信
- ・ 車両の安全運転教育
- ・ 「スマイルと帰ろう」プログラム*の展開

※「スマイルと帰ろう」プログラム：安全意識の向上・安全文化の醸成による重大な労働災害ゼロを目指したコカ・コーラシステム共通の労働安全プログラム。

Policy

03

方針3.社会との共生

重点項目⑥

地域社会との共生

(地域社会貢献活動)

「地域とともに」の基本姿勢のもと、
地域社会との共生・共栄を強く意識し、地域社会の発展に貢献します。



市村自然塾九州

市村自然塾九州は、「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念とした青少年教育活動を推進する特定非営利活動法人(NPO法人)です。子どもたちの健全な育成・成長を支援するために、株式会社リコーおよびリコー三愛グループ並びに当社の創業者である市村 清の生誕100周年を記念して、2003年に開塾されました。

小学4年生から中学2年生までの塾生たちは、約9ヵ月間にわたって週末の2泊3日を仲間たちやペアレント(世話人)とともに過ごし、鳥栖(佐賀県)の豊かな自然の中で農作業を中心としたさまざまな活動を体験します。今日までに、延べ687名の子どもたちが立派に卒塾していきました。

当社では社会貢献活動の一環として、塾生たちが農作物の栽培から収穫までの体験や、登山、飯ごう炊さん、自然観察、座禅、清掃活動などの活動を通して、多様な自然の生態と原理、地域社会のルールを学び、共同生活を通じて『人として守るべき規律を身につけ、主体性・創造性などの資質を育む』場を提供し、その実践活動を通じて青少年の健全育成に寄与していきたいと考えております。

この取り組みが高く評価され、2014年には公益財団法人社会貢献支援財団より、表彰されました。



項 目	2014年の主な活動実績
文化・教育活動支援	・クラシックコンサート(4回公演 福岡、大阪、広島、熊本) ・ファミリーミュージカル(4回公演 福岡、大阪、広島、熊本) ・市村自然塾九州(第12期生 男女各30名 計60名が卒塾)
スポーツ活動支援	・小学校への一輪車贈呈(120校、1,200台) ・一輪車指導者研修会の開催(6ヵ所、約600名 主に小学校の教員を対象) ・地域活動への参加(タグラグビー 57回 6,200名) ・地域マラソンのサポート(福岡、大阪、熊本、宮崎など 合計6万人超)
社会福祉支援	・特別支援学校への情報関連機器(パソコン・タブレット)贈呈(19校 対象:2府16県 ※大阪府は2校)
カンパニースポーツを通じた貢献活動	・講演活動(チームマネジメント 5回 500名) ・ラグビークリニック(19回 3,500名) ・ホッケークリニック・教室(15回 980名)

クラシックコンサート

豊かな社会(心豊かな人材育成)づくりに貢献するため、1989年から地域のみなさまに質の高い本格的なクラシック音楽演奏会「コカ・コーラウエスト クラシックコンサート」を開催しています。2014年は「ウィーン・リング・アンサンブル ニューイヤーコンサート(福岡)」、「8人のスーパー・チェロ・アンサンブル ウェン=シン・ヤンと仲間たち(広島)」、「前橋汀子〈ヴァイオリン〉&松本和将〈ピアノ〉(熊本)」、「新イタリア合奏団(大阪)」を開催しました。幅広い年代のお客さまを招待し、素晴らしい音色を堪能していただきました。



ファミリーミュージカル

親子の絆を育む活動として、2000年から夏休み期間中に親子で楽しめる「コカ・コーラウエスト ファミリーミュージカル」を開催しています。2014年は勇気と友情をテーマに描かれた「ゲゲゲの鬼太郎〜十万億土の祈り唄〜」を福岡・大阪・広島・熊本の4地区で開催し、地域のお客さまを招待しました。

親しみやすい演目のミュージカルで、楽しいご家族のひとときを過ごしていただきました。





スポーツを通じた支援

小学校への一輪車贈呈

次世代を担う子どもたちがスポーツを通じて協調性や忍耐力を養い、健全に成長することを願い1994年から公立小学校に一輪車を贈呈しています。一輪車は身のこなしを良くし、神経系統の発育に有効な運動器具として評価が高く、児童が自主的に興味を持って取り組める教材として文部科学省が定める学習指導要項に採用されています。2014年は、事業エリア内の小学校120校へ計1,200台の一輪車をお届けしました。当社ではこれまでに2,745校、27,450台の一輪車を贈呈しました。



一輪車指導者研修会を支援

普段は生徒に教える立場の教員のみなさまに、一輪車の実技を通じて一輪車の楽しさを体験していただき、技術向上と指導法について学んでいただくために公益財団法人 日本一輪車協会主催、文部科学省と県の教育委員会が後援する「一輪車指導者研修会」に協賛・協力しています。2014年は、エリア内6カ所で開催し、当社社員が乗車補助など実技のサポートに協力しました。



社会福祉を通じた支援

特別支援学校への教材贈呈

当社は地域の発展や青少年の健全育成を支援することで、豊かな社会の実現に貢献できるよう取り組みを行っています。その一環として、心身に障がいを持つ子どもたちが将来自立するための一助となれるように、1993年から特別支援学校に情報機器教材(パソコン、タブレットなど)を贈呈しています。2014年は事業エリア内18府県の19校へ情報機器教材を贈呈し、開始当初より合計278校へ贈呈しました。



TOPICS

スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックスは、知的障がいのある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供している国際的なスポーツ組織です。

ザ コカ・コーラ カンパニーでは、1978年よりスペシャルオリンピックス国際本部のグローバルパートナーとして、世界大会や各国の競技会などへ協賛や飲料水提供を通じて世界規模で活動を支援しています。「2014年第6回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・福岡」では、選手やコーチ・ボランティアなど延べ約15,000人へ飲料水の提供を通じて大会運営をサポートしました。



※写真提供:スペシャルオリンピックス日本



その他活動を通じた支援

奨学支援事業

コカ・コーラ教育・環境財団を通じ、国際社会が求める青少年の育成、地域社会を支える人材の育成に貢献することを目的として、経済上の理由により大学への進学が困難な事情にある方に大学在学の期間に奨学金を支給する事業を行っています。

奨学事業は40年以上の歴史を持ち、昨年は新たに18名の学生が奨学生となりました。

※コカ・コーラ教育・環境財団 奨学生募集は、毎年秋に各高等学校を通じて募集しています。



全日本中学校英語弁論大会

教育支援活動の一つとして、「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会(1999年に高松宮杯より継承)」に1963年より協賛しています。国内の数ある英語弁論大会の中でも歴史は古く、日本最大の英語弁論大会として全国で毎年10万人以上の中学生が参加しており、当社は府県大会より全国大会までサポートしています。



※写真提供:読売新聞社

さわやかサマースクール

夏休み期間中、次世代を担う子どもたちに豊かな自然環境の中でさまざまな体験活動の場を提供し「考える力」を養ってもらいたいと、2007年より「グリーンパークえびの」をメイン会場に実施している体験教室です。毎年、多くの子どもたちに参加いただく人気のイベントで、行政や大学、宮崎県や鹿児島県の市民団体のみなさまと協働で開催しています。



地域で開催されるイベントへの協力

地域社会とともに歩む企業として各地で実施されるさまざまなイベントに協力しています。2014年は、福岡市で開催された「博多どんたく港まつり」のパレードへの社員参加や「広島フラワーフェスティバル」への企業ブース出展をはじめ、子どもたちのスポーツ大会などに協力いたしました。今後も地域社会と共生・共栄のため、地域の発展に貢献してまいります。



TOPICS

地域マラソンをサポート

2014年10月26日に「大阪マラソン2014」が開催されました。大阪城をスタートし道頓堀、通天閣などのスポットをめぐる大会には、車いす、フルマラソンの2部門に約3万人のランナーが参加し、大きな賑わいを見せました。当社はオフィシャルソフトドリンクパートナーとして「アクエリアス」「森の水だより」を提供し、ランナーの喉をうるおしました。

そのほかにも、福岡マラソン、熊本城マラソンなど市民マラソンにも協力しています。





カンパニースポーツを通じた地域への貢献活動

コカ・コーラウエストグループは、カンパニースポーツである「ラグビー」と「ホッケー」の活動を通じて、「会社」と「地域社会」に「活力」や「感動」、「喜び」をもたらすべく明るい話題を提供し続けるチームでありたいと考えています。

そのためファンのみならず地域の方々から愛されるチームを目指し、選手が社会人として仕事とスポーツを両

立する日々の姿や社会貢献活動への真摯な取り組みにより、活力のある企業へ前進していきます。

また試合を通して多くのみなさまに感動をお届けするのはもちろん、直接ふれあえる一つひとつの場を大切に、未来ある子どもたちの心身の健全な育成や、地域活動への参加により、活気ある地域社会の実現に貢献していきます。

コカ・コーラレッドスパークス (ラグビー部)



- 【創 部】 1966年
- 【本 拠 地】 福岡市
- 【所属リーグ】 ジャパンラグビートップリーグ
- 【部 員 数】 48名

チーム紹介

コカ・コーラウエストレッドスパークスは2014年7月「コカ・コーラレッドスパークス」に名称を改めました。現在、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップに向けて日本代表選手を輩出する日本ラグビー界の中心チームとなるべく、システム全体、選手補強や、試合環境の充実といった施策はもちろんのこと、多くの方に応援していただけるようチーム力を高める戦略強化に取り組んでいます。

活動取り組み

九州を中心にラグビークリニックを開催し、特にお子さまの参加者からの反響を実感してきました。今後は次世代の選手育成という観点とともに、運動量が不足している若者とその保護者の方々に「スポーツが身近にある生活習慣」を提案し、3年間で全国47都道府県での開催を予定しています。

コカ・コーラウエストレッドスパークス (ホッケー部)



- 【創 部】 1996年
- 【本 拠 地】 広島市
- 【所属リーグ】 ホッケー日本リーグ
- 【部 員 数】 15名

チーム紹介

2005年念願の「日本リーグ」に参入。2007年チーム名を「コカ・コーラウエストレッドスパークス ホッケー部」に一新し、日本の社会人チームとしては初のホッケー専用グラウンド「コカ・コーラウエストレッドスパークス ホッケースタジアム」を保有し、充実した競技環境のもと、日々練習に取り組んでいます。現在2016年開催のリオデジャネイロオリンピック出場に向けて選手強化を実施しており、当チームからも多くの選手の輩出を目指しています。

活動取り組み

活動拠点である広島県の小学校を対象としたホッケー教室では、スポーツの楽しさを知っていただくこと。また、高校生・大学生を対象としたホッケークリニックでは、競技力の向上を目的とした活動に取り組んでいます。ホッケーを通じ、地域のみならずふれあう機会を大切にし、次世代の子どもたちにスポーツに興味を持っていただく取り組みを行っています。

昨年以上の
勝利を目指します!
応援をお願いします!!

Nick Cummins
(ニック・カミンズ)



いつも温かい応援をいただき感謝しております。今年、チームは一戦一戦を確実に戦い抜き、大会における優勝を目指していきます。社員のみなさま、地域のみなさまへ感動を届けるとともに喜びを分かちあいたいと思います。今後ともご支援、ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

加藤 彰子



AHL*活動

コカ・コーラシステムでは、清涼飲料メーカーとして心身ともに健康で健全なライフスタイルを推進することを目的に商品に関する情報の提供のみならず、清涼飲料を通じた正しい水分補給や食育に関する認知・普及活動を展開しています。また活動的で健康的な生活習慣づくりを支援するため、さまざまなスポーツ事業の支援などを通じて人々が運動やスポーツに楽しむ機会を幅広く提供しています。

※AHLとは、Active Healthy Livingの略。

講演活動

スポーツを通じた数々の経験から、夢を持つこと、チャレンジすることの大事さ、また、コミュニケーションを通してのチームビルディングや、ビジネスにも応用できるチーム組織力、マネジメントに関する内容など、子どもから大人までの幅広い年齢の方を対象とした講演活動を実施しています。

2014年は小学校、中学校、大学、指導者、企業研修など12カ所での講演活動のほか、熱中症対策についての講演を実施しました。



スポーツ全般の機会創出支援(教室)

活動的で健康的な生活習慣づくりを支援するために、さまざまなツールを活用し、スポーツに親しむ機会を幅広く提供しています。

2014年はラグビー*教室 57回、ホッケー教室 12回、その他大会等のサポートを実施いたしました。

※ラグビー:腰につける2本のタグを取ることで「タックル」の代わりで、タグを取られないようボールを選び、得点する競技です。



競技力向上のための教育支援(クリニック)

幼児から大学生まで幅広い年齢層にわたり競技力向上のお手伝いをしています。また選手だけでなく、指導者も交えたクリニックを実践することで競技の安全性や基礎づくりの重要性もお伝えしています。2014年はラグビークリニック19回、ホッケークリニック3回を実施いたしました。



地域活動への参加

地域貢献の一環として清掃活動や各種イベントなど、地域で行われる活動に参加しています。

2014年6月8日「2014ごみゼロ・クリーンウォーク」にレッドスパークス ホッケー部選手が参加しました。この活動は「ごみのない清掃できれいな街」にすることを目的とした行政、企業、市民が一体となって実施している環境美化活動です。当日は7名の選手が広島市役所から旧広島市民球場跡地までの区間、地域のみなさまといっしょに清掃活動に取り組みました。



方針4. 環境との調和

重点項目⑦

環境推進

(地球環境保全・地域環境推進活動)

事業の成長と環境負荷低減を両立する「地球環境保全」と地域社会における自然環境保全や環境啓発を推進する「地域環境推進活動」の2つの活動を通じて、「環境先進モデル企業」を目指します。

基本方針

コカ・コーラウエストグループは、地球環境保全を最重要課題のひとつと認識し、飲料を通じてステークホルダーにハッピーでいきいきとしたライフスタイルを提供する企業として、持続可能な社会の発展に貢献します。社員一人ひとりと会社が一体となった取り組みにより、環境保全活動を継続的に推進します。

行動指針

- 事業活動のさまざまな場面で環境に配慮し、環境リスクへの予防手段を優先します。
- 日常業務の中で、環境負荷削減を目標とするシステムを運用し、その継続的な改善に努めます。
- 水の有効活用、エネルギー使用の効率化、廃棄物の削減・リサイクルを推進します。
- 適用される法規制、協定、必要に応じて設定する自主基準等を順守します。
- 地域社会に貢献し、次世代に成果の残る活動を展開します。
- 社員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に取り組みます。
- ステークホルダーとのコミュニケーションを推進し、良き企業市民として行動します。

項 目	2014年の主な活動実績
環境マネジメントシステム運用	・ISO14001拡大認証(南九州エリア、ウエックス)取得
地球温暖化対策	・温室効果ガス(CO ₂)を2004年(基準年)比で排出量約36%削減
廃棄物の削減・リサイクル	・回収した空容器をスチール、アルミ、PETボトル、ガラスびんなどに分別し、約34千tを再資源化 ・廃棄自動販売機のリサイクル台数は、当社グループ全体で約34千台 ・生産活動で発生する廃棄物の分別・リサイクルをすべての工場で推進し、ゼロエミッション(全廃棄物リサイクル率99%以上)を達成
水資源保護	・水源涵養林の面積を418ha(2013年)から1,842haに拡大したことで、当社グループ全工場の「製品になる水」と同等量以上の水源涵養量を達成 ・「さわやか自然の森」にて社員中心で森林保全活動を実施
地域美化活動	・行政主催の清掃活動へ参加(事業エリア内14ヵ所、社員および家族総勢約700名参加)

環境マネジメント

グループ一体となった環境経営推進のため、ISO14001の認証取得とシステムの効果的な運用を行っています

当社グループでは、環境との調和を目指しグループ一体となって環境経営を推進しています。グループ各社で環境管理の国際規格であるISO14001の認証を取得し、環境マネジメントの効果的な運用を行っています。またコカ・コーラシステム独自の世界共通のマネジメントシステム「KORE」の運用を推進し、マネジメントシステムの強化を図るとともにさらなる成長と環境保全の両立のため継続的な改善を推進しています。

● 環境マネジメントシステム



● ISO14001認証範囲一覧

事業所名	認証取得年月
コカ・コーラウエスト株式会社 コカ・コーラウエストベンディング株式会社 西日本ビバレッジ株式会社※1 株式会社カディアック 株式会社ウエックス※2 コカ・コーラウエスト販売機器サービス株式会社※1 コカ・コーラウエストセールスサポート株式会社※2 コカ・コーラウエストサービス株式会社	2009年12月 統合認証取得 ※1 2010年12月に 認証範囲に 統合・追加 ※2 2014年11月に 認証範囲に 統合・追加
コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社 京都工場 明石工場 本郷工場 鳥栖工場 基山工場 熊本工場 えびの工場	2000年 1月 2008年 11月 1999年 6月 1999年 11月 1999年 11月 2001年 3月 2007年 3月
コカ・コーラウエスト大山プロダクツ株式会社 大山工場	2007年 12月

● 環境負荷指標算定基準

環境負荷指標	単位	算定方法
インプット		
原材料投入量	千t	生産活動にともなう原液・コーヒー豆・茶葉などの年間投入量
資材投入量	千t	生産活動にともなう梱包資材の年間投入量
取水量	千m ³	生産活動にともなう上水・井戸・工業用水年間使用量
アウトプット		
温室効果ガス(CO ₂)排出量	千t-CO ₂	各燃料年間使用量×CO ₂ 排出係数* 主な燃料のCO ₂ 排出係数 ●A重油:2,710t-CO ₂ /kL ●軽油:2,624t-CO ₂ /kL ●ガソリン:2,322t-CO ₂ /kL ●都市ガス:2,108t-CO ₂ /kL
	千t-CO ₂	年間購入電力量×CO ₂ 排出係数* CO ₂ 排出係数:2004年の地域の電力会社別係数 (ただし、中国エリアについては0.555kg-t-CO ₂ /kWh)
廃棄物発生量	千t	生産活動にともなう廃棄物(有価物含む)
空容器回収量	千t	実際の回収量から残渣を除いて再資源化された量

※燃料および電力のCO₂排出係数は、自らの削減努力を適切に表現できるよう、当社グループ温室効果ガス削減計画策定時に採用した係数(基本的に2004年の係数)をすべての年に適用しています。

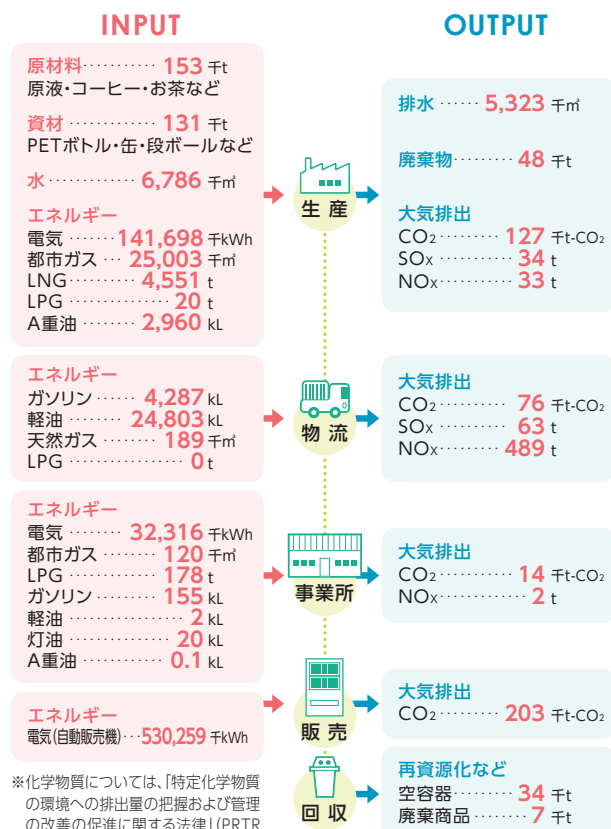
事業活動に伴う環境負荷量

商品のライフサイクルを通じた環境負荷の低減に努めています

生産から回収まで商品のライフサイクルを通じて発生する環境負荷量を把握し、事業活動全体での環境負荷の低減に努めています。2014年の事業活動にともなう環境負荷量は以下のとおりでした。

マテリアルフローの中では自動販売機の使用によるCO₂排出量が約203千tで最も多く約48%を占めており、生産部門のCO₂排出量は約127千tで全体の約30%でした。生産に伴う水使用量は約7百万m³、排出量は約5百万m³となり、廃棄物排出量は約48千tでした。また販売後に回収した空容器の再資源化は約34千tでした。

● 環境負荷量(2014年)



環境会計

2014年の経済効果は480百万円 効果的な環境経営を推進しています

環境関連活動における投資額、費用額、ならびに経済効果を把握し効率的な環境経営の推進につなげています。

当社グループの環境会計は「環境マネジメント」「地球温暖化対策」「廃棄物管理・リサイクル」「水資源の管理」「地域環境推進活動」の5つの活動に区分し、環境保全コストと経済効果を把握しています。

2014年実績の集計結果、投資額に関しては主にエコカー導入などの「地球温暖化対策」が約80%、回収水の利用や排水処理などの「水資源の管理」が約5%、費用投資額に関しては空容器リサイクルなどの「廃棄物管理・リサイクル」が約10%を占めています。

● 環境会計 (2014年実績)

活動区分	環境保全コスト(百万円)		経済効果 (百万円)
	投資額	費用額	
環境マネジメント	0	44	0
地球温暖化対策	219	817	100
廃棄物管理・リサイクル	31	1,848	380
水資源の管理	13	876	0
地域環境推進活動	0	164	0
合 計	263	3,749	480

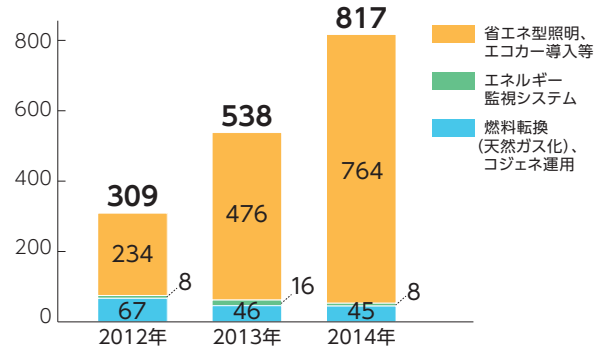
● 環境会計指標算定基準

環境負荷指標	単位	単位算定方法
環境保全コスト	百万円	[投資額] ● 環境保全に貢献する設備の財務会計上の投資額
		[費用額] ● 環境保全に貢献する設備の財務会計上の減価償却額 ● 環境保全に貢献する設備の維持運営費 ● 環境保全に関わる人件費 ● 環境保全に関わる諸経費
		複合コストについて:原則的には差額集計とするが、差額が明瞭に判別できない場合は、按分集計、簡便集計を行う
経済効果	百万円	環境保全活動にともなう収入額・節減額

環境会計 (費用額の推移)

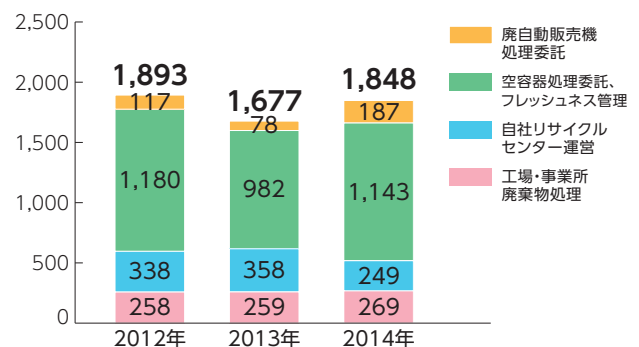
● 地球温暖化対策 (単位:百万円)

(単位:百万円)



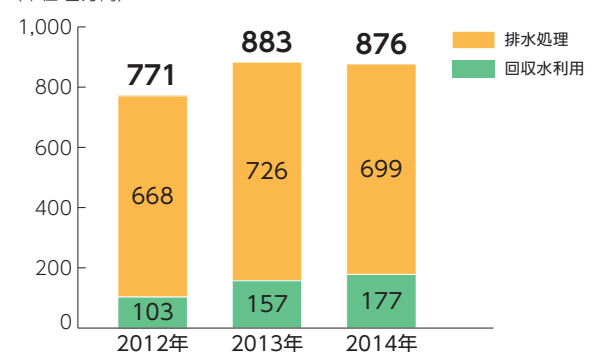
● 廃棄物・リサイクル (単位:百万円)

(単位:百万円)



● 水資源の管理 (単位:百万円)

(単位:百万円)



地球温暖化対策

温室効果ガスの削減に計画的に取り組んでいます

2020年までに2004年(基準年)比で総量47%削減の目標を掲げ、当社グループ全社員が一丸となって活動を推進しています。

2014年は、「ピークシフト自販機」を中心とした省エネ自動販売機を投入したり、車両台数の削減・小型化、同一製品の連続生産、拠点の集約などにより温室効果ガス削減を実施しました。

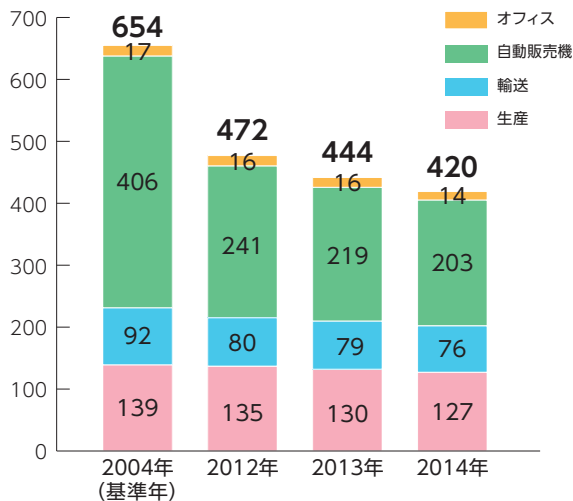


2014年温室効果ガス排出量実績

【コカ・コーラウエストグループ】

2004年(基準年)比、約36%削減の420千t-CO₂

● 温室効果ガス(CO₂)排出量の実績推移 (単位:千t-CO₂)

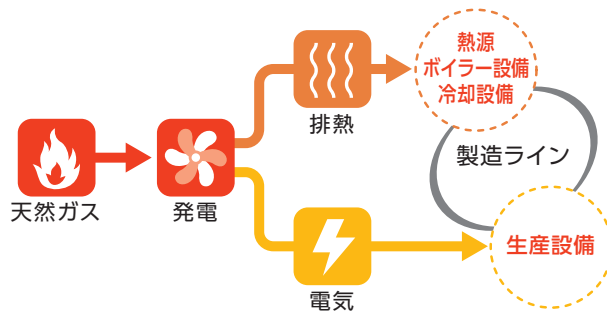


8工場でさらなる削減を目指し、天然ガスへの燃料転換をはじめとする取り組みを行っています

当社グループの8つの工場では、製造工程から発生する温室効果ガスを削減の取り組みとして、重油と比較して温室効果ガス排出量の少ない天然ガスへの燃料転換や、コ・ジェネレーションシステムの導入を行っています。今後も引き続き生産性の効率を図り、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。

● コ・ジェネレーションシステム

ガスエンジンなどで発電し、発電時の排熱で温水や蒸気をつくり、電気と熱を同時に供給するシステム



● 温室効果ガス削減の取り組み

工場名	取り組み内容	導入年
京 都	天然ガス化	1998年
明 石	天然ガス化	1994年
本 郷	コ・ジェネレーションシステム導入 天然ガス化	2003年 2009年
鳥 栖	天然ガス化 コ・ジェネレーションシステム導入	2005年 2005年
基 山	天然ガス化	2006年
熊 本	天然ガス化	2014年
えびの	コ・ジェネレーションシステム導入	2005年

輸送の効率化や電気自動車の導入など車両燃料の削減に取り組んでいます

アイドリングストップや経済走行などエコドライブに取り組むとともに、自動販売機やお得意さまへの配送車両には運転状況の解析やチェックを行うため、「セーフティレコーダー」を搭載し、安全運転と燃費改善に取り組んでいます。

また、工場間や倉庫間の輸送における車両の大型化やモーダルシフトの取り組みにより、輸送の効率化を進めています。さらに、電気自動車・天然ガス・ハイブリッド自動車などエコカーの積極的な導入や営業車両の小型化など温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

循環型社会の実現

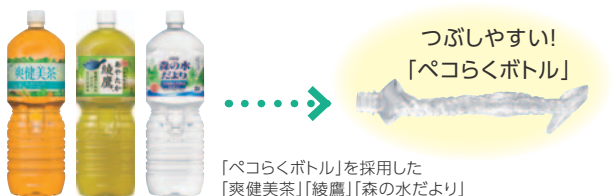
サスティナブル・パッケージ (持続可能な容器)

コカ・コーラシステムでは、製品パッケージは環境にやさしく人にとっても使いやすくなければならないという考えのもと、「サスティナブル・パッケージ (持続可能な容器)」という世界共通のコンセプトで容器開発に取り組んでいます。

コカ・コーラシステムでは清涼飲料にPETボトルを使用しはじめた1982年より継続的な軽量化推進とデザインの改良により、少ない資源利用で使いやすい容器をお届けしてまいりました。

またこの取り組みを一步進めるものとして、当社は2014年11月24日より、注ぎやすさとつぶしやすさを追求した新しい2LPETボトル「ペコらくボトル」を九州エリアにて茶系飲料および水製品で展開いたしました。

● ペコらくボトル ※2015年2月23日より全国で販売開始



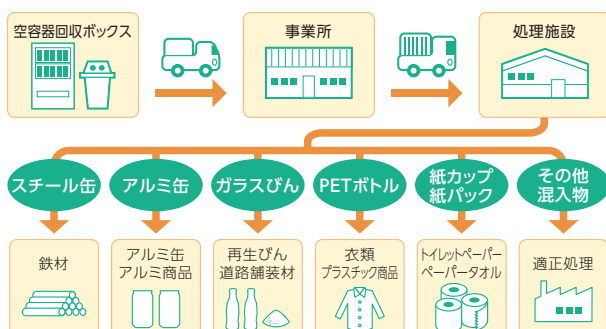
空容器リサイクル

空容器回収ボックスに投入された空容器のリサイクルを推進しています。自社の処理施設では、回収した容器をスチール缶、アルミ缶、PETボトル、ガラスびんなどに分別し、2014年の再資源化量は約34千tになりました。

● 空容器再資源化量の推移 (単位:t)

	2012年	2013年	2014年
スチール	17,869	16,821	13,880
アルミ	3,076	3,549	4,546
びん	5,280	5,622	5,637
PETボトル	7,924	9,677	10,270
紙	125	109	108
合 計	34,274	35,778	34,441

● 空容器リサイクルフロー図



自動販売機リサイクル

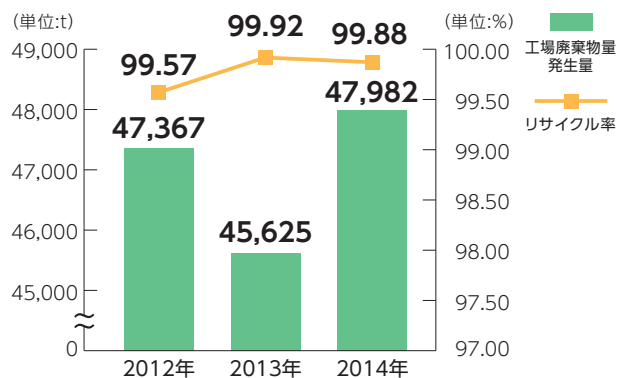
老朽化などで廃棄対象となる自動販売機はすべて再資源化しています。

自社処理施設である「北九州さわやかリサイクルセンター」等にて回収された廃棄自動販売機の解体・分別を行い、オゾン層破壊につながる二酸化炭素の数十倍もの温室効果があるフロンガスについても適正に回収しています。自社処理施設での2014年の廃棄自動販売機のリサイクル台数は約20千台、委託処理も含めた当社グループ全体では約34千台となりました。

工場廃棄物のリサイクル

製造にともない発生する廃棄物の分別・リサイクルをすべての工場で推進し、継続してゼロエミッション(全廃棄物リサイクル率99%以上)を達成しています。中でも発生量の大部分を占めるコーヒーかす・茶かすは有機肥料や助燃剤として100%の再資源化を継続しています。

● 工場廃棄物発生量とリサイクル率の推移



● 工場廃棄物発生量とリサイクル率 (単位:t)

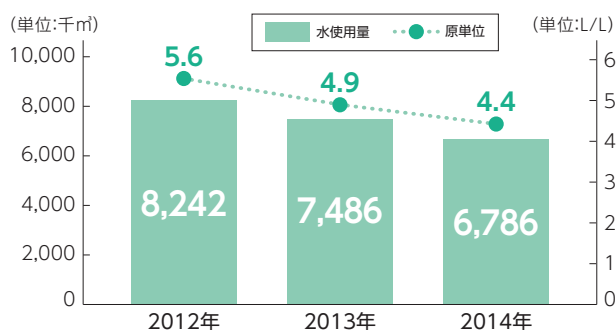
種 類	2012年 発生量	2013年 発生量	2014年 発生量	リサイクル率	再生利用用途
コーヒーかす	26,163	22,536	25,237	100.00%	有機肥料
茶かす	11,190	13,122	13,800	100.00%	
汚泥	6,190	6,303	6,085	99.62%	再生プラスチック燃料
廃プラスチック類	1,106	1,083	998	99.69%	
ガラス類	182	156	259	99.70%	再生カレット
金属類	471	387	287	98.64%	再生鋼材アルミ缶
紙類	1,216	1,204	1,138	100.00%	段ボール再生紙
廃油	12	13	19	97.92%	再生油
その他	837	821	159	84.47%	路盤材など
合 計	47,367	45,625	47,982	99.88%	

水資源保護

水使用量の削減

当社グループでは製造工程における水の有効利用に取り組んでいます。2014年は全工場合計で前年比10%減の4.4L/Lとなりました。引き続き製造時の水使用量の削減を進めていきます。

● 水使用量と水使用量原単位*



※水使用量原単位:製品1Lを製造するために使用する水量

水田湛水推進事業への参画

熊本工場の水資源保護活動として、「あそ さわやか自然の森」での森林保全、阿蘇の草原再生募金に続き、当社グループと熊本県、水循環型営農推進協議会の三者間で水田湛水推進事業に関する協定を締結し地下水を涵養しています。

- 内容 水田湛水実施農家への助成
- 面積 約2ha(推定涵養量 約6万t)
- 期間 2014年6月1日～30日

ざるのように水が浸透することから通称「ざる田」と呼ばれます。



地下水涵養効果

熊本市は「日本一の地下水都市」として、約74万人の市民の水道水源のすべてを良質な地下水で賄っています。白川中流域(大津町・菊陽町)の水田は、他地域に比べ約5～10倍の涵養能力があり、この地質を利用し転作田に水を張ることで地下水を涵養しています。

地域環境推進活動

さまざまな形で、地域環境推進活動に取り組んでいます

当社グループでは子どもたちへの環境教育支援のほか、環境美化、緑化など、さまざまな地域環境推進活動に取り組んでいます。

環境教育支援

2014年11月、三原市の北方・船木・南方小学校の3、4年生総勢62名が社会科授業の一環として、本郷工場の見学および「ひろしま さわやか自然の森」での森林保全活動を行いました。工場見学でコカ・コーラの歴史や製造環境について理解を深めた後、さわやか自然の森にて地元森林組合職員の指導のもとヒノキ苗を植樹。森林を守り、水資源の大切さを伝えるための啓発活動を実施しました。



地域美化活動

毎月事業所周辺の道路・公共場所の清掃活動を実施しています。また、地域の方々と交流できるコミュニケーションの場として、各事業所が所在する地方自治体主催の清掃活動に積極的に参加しています。

2014年は事業エリア14ヵ所で、社員とその家族約700名が地域の清掃活動に参加し、地域の美化に貢献しました。



工場緑化の推進

緑化優良工場において経済産業大臣賞を受賞

公園工場「グリーンパークえびの」(えびの工場)は、2014年度の全国緑化優良工場等表彰において、最高賞となる経済産業大臣賞を受賞しました。

この賞は1982年より「工場緑化を推進し、工場内外の環境向上に顕著な功績があった工場」を表彰してきた歴史ある賞です。

敷地内で季節ごとに花を植栽し地域住民や観光客を魅了している点や、敷地内を解放して地域イベントが開催される点、工場周辺における水生生物調査などの次世代を対象とした環境教育の場として活用されている点が評価されての受賞となりました。



コカ・コーラウエストグループ CSR活動実績

当社グループではCSRの取り組みを、ステークホルダーのみなさまにハッピーを提供し持続可能な社会の発展に貢献していく上で最も重要な経営課題の一つと位置づけています。

『誠実な企業活動』『人間尊重』『社会との共生』『環境との調和』の4つの基本的な考え方のもと取り組んできたCSR活動実績をご紹介します。

基本的な考え方	ISO26000	項目		単位	2012年	2013年	2014年
誠実な企業活動							
お客さま満足	消費者課題	コンタクトセンター応答率 ^{※1}		%	—	93.6	98.5
人間尊重							
人権尊重と社員の働きがい	人権	正社員数		人	8,657	8,415	7,514
			うち男性	人	7,926	7,698	6,829
			うち女性	人	731	717	685
		新卒3年後定着率		%	91.4	96.9	93.4
	労働慣行	障がい者雇用率	コカ・コーラウエスト単体	%	1.8	2.3	2.1
		育児休業取得者数		人	44	34	63
			うち男性	人	1	0	1
		介護休業取得者数		人	2	1	0
		チャレンジ休業 ^{※2} 取得者数		人	2	0	0
		社員働きがい ^{※3}		%	60.9	58.9	46.5
人権研修受講者数 ^{※4}			人	6,863	7,775	7,644	
社会との共生							
地域社会との共生	コミュニティへの参画および コミュニティの発展	さわやか自然の森参加者数		人	553	718	422
		地域美化活動参加者数		人	1,178	962	712
		市村自然塾九州参加者数		人	60	60	60
		クラシックコンサート開催		回	3	4	4
		ファミリーミュージカル開催		回	3	4	4
		小学校への一輪車贈呈		校	100	120	120
				台	1,000	1,200	1,200
		特別支援学校への 情報機器教材贈呈		校	15	19	19
		災害対応型自動販売機の設置		台	499	1,267	1,468
		支援型自動販売機の設置		台	4,479	4,838	5,666

注) 2012年、2013年の数値は合併前のコカ・コーラウエストグループと南九州コカ・コーラボトリンググループの合計数値です。

ただし、「人間尊重」については、コカ・コーラウエスト大山プロダクツ株式会社、コカ・コーラウエストサービス株式会社、株式会社カディアック、株式会社ウエックス、キューサイ株式会社を除いた数値を示しています。

※1 コンタクトセンター応答率：8:30～18:00の間の応答率。

※2 チャレンジ休業：社員の自己成長とキャリアアップを支援することを目的とした休業制度。（2013年まで旧南九州コカ・コーラボトリンググループは制度対象外）

※3 社員働きがい：社員を対象とした働きがいに関するアンケートで、肯定的な回答をした人の割合。

※4 人権研修受講者数：派遣社員等含む。

※5 水使用量原単位：商品1Lを製造するために使用する水量。

※6 株式会社日経リサーチが行う「環境経営度調査」報告書より引用。

基本的な考え方	ISO26000	項目	単位	2012年	2013年	2014年
---------	----------	----	----	-------	-------	-------

環境との調和								
環境推進	環境	原材料		原液・コーヒー豆・茶葉等	千t	157	154	153
		資材		PETボトル・缶・ダンボール	千t	140	134	131
		水使用量			千㎡	8,242	7,486	6,786
		水使用量原単位 ^{※5}			L/L	5.6	4.9	4.4
		使用 エネルギー量	製造	電気	千kWh	130,601	130,899	141,698
				都市ガス	千㎡	25,665	24,534	25,003
				LNG	t	5,046	4,942	4,551
				LPG	t	11	12	20
				A重油	kL	6,965	5,929	2,960
			物流	ガソリン	kL	5,963	5,606	4,287
				軽油	kL	32,403	31,884	24,803
				天然ガス	千㎡	215	193	189
				LPG	t	22	16	0
			オフィス	電気	千kWh	37,964	35,898	32,316
				都市ガス	千㎡	191	183	120
				LPG	t	155	131	178
				ガソリン	kL	197	175	155
				軽油	kL	7	1	2
				灯油	kL	26	22	20
				A重油	kL	6	0.2	0.1
			販売	電気(自動販売機)	千kWh	610,267	555,132	530,259
		工場排出物量			t	47,367	45,625	47,982
		温室効果ガス(CO ₂)排出量	製造	千t-CO ₂	135	130	127	
			物流	千t-CO ₂	80	79	76	
			オフィス	千t-CO ₂	16	16	14	
			販売	千t-CO ₂	241	219	203	
			合計	千t-CO ₂	472	444	420	
		回収リサイクル	スチール	t	17,869	16,821	13,880	
			アルミ	t	3,076	3,549	4,546	
			びん	t	5,280	5,622	5,637	
			PETボトル	t	7,924	9,677	10,270	
			紙	t	125	109	108	
			合計	t	34,274	35,778	34,441	
自動販売機リサイクル	自社処理数	台	18,937	18,310	20,293			
	委託処理数	台	14,157	14,917	13,524			
	合計	台	33,094	33,227	33,817			
エコカー導入台数	ハイブリッド	台	380	548	648			
	天然ガス	台	71	43	38			
	電気自動車	台	33	33	36			
	合計	台	484	624	722			
環境配慮型 (自然冷媒ノンフロン型) 自動販売機の設置台数			台	79,765	101,309	122,743		
環境経営度ランキング ^{※6}		食品	位	7	10	10		
		製造業	位	88	123	141		

コカ・コーラウエストグループの概要

コカ・コーラウエストグループは、日本の人口の約3割を擁する巨大な市場である関西・中国・九州の2府16県で事業を展開する企業です。お客さまにいつでもどこでも「おいしい」商品を提供するために、グループ社一体となって厳格な品質管理体制のもとお客さま起点の活動を徹底し価値ある商品・サービスの提供に努めています。

会社概要

(2014年12月31日現在)

商 号	コカ・コーラウエスト株式会社 (英文:COCA-COLA WEST COMPANY, LIMITED)
設 立	1960年 12月 20日
資 本 金	152億3千1百万円
代 表 者	代表取締役社長 吉松 民雄
従 業 員 数	8,324名(連結)、1,756名(単体)
決 算 期	12月
主 な 事 業 内 容	コカ・コーラ等清涼飲料水の製造・販売
上 場 証 券 取 引 所	株式会社東京証券取引所(市場第一部)、証券会員制法人福岡証券取引所



役員紹介

(2015年3月24日現在)

取締役

代表取締役	末吉 紀雄	会長
代表取締役	吉松 民雄	社長 兼 営業本部長
代表取締役	柴田 暢雄	副社長 管理・SCM部門担当
取締役	竹森 英治	グループ上席執行役員 コカ・コーラウエスト販売機器サービス株式会社 代表取締役社長
取締役	深見 利雄	常務執行役員 CSR統括部長
取締役	岡本 繁樹	常務執行役員 営業統括本部長
取締役	藤原 義樹	常務執行役員 営業統括本部 九州第一営業本部長
取締役	古賀 靖教	常務執行役員 管理統括部長
取締役	本坊 俊一郎	常務執行役員 営業統括本部 九州第二営業本部長
取締役	近藤 史朗	株式会社リコー 代表取締役 会長執行役員
取締役	ヴィカス ティク	ザ コカ・コーラ カンパニー コカ・コーラアジアパシフィックグループCFO 日本コカ・コーラ株式会社 代表取締役副社長兼CFO

監査役

常任監査役	宮木 博吉	常勤
監査役	田口 忠憲	常勤
監査役	三浦 善司	株式会社リコー 代表取締役 社長執行役員・CEO
監査役	礪山 誠二	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役副頭取
監査役	大神 朋子	弁護士 國武綜合法律事務所

経営諮問委員

委 員	久保田 勇夫	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役会長
委 員	長尾 亜夫	西日本鉄道株式会社 相談役
委 員	榎本 一彦	福岡地所株式会社 代表取締役会長
委 員	貫 正義	九州電力株式会社 代表取締役会長
委 員	石原 進	九州旅客鉄道株式会社 相談役
委 員	松崎 隆	弁護士 徳永・松崎・斎藤法律事務所 代表

沿革

- 1960年** (昭和35年12月) 飲料の製造・販売を目的とし、資本金5千万円をもって日米飲料株式会社を、福岡市長浜町一丁目5番地に設立。
- 1999年** (平成11年7月) 山陽コカ・コーラボトリング株式会社と合併し、商号をコカ・コーラウエストジャパン株式会社に変更。
- 2001年** (平成13年4月) 三笠コカ・コーラボトリング株式会社の株式を取得し、子会社とする。
- 2006年** (平成18年7月) 商号をコカ・コーラウエストホールディングス株式会社に変更し、飲料・食品の販売に関する営業を新設したコカ・コーラウエストジャパン株式会社に承継させる会社分割を実施。近畿コカ・コーラボトリング株式会社を完全子会社とする株式交換を実施。
- 2007年** (平成19年4月) 南九州コカ・コーラボトリング株式会社に出資し、同社が持分法適用の関連会社となる。
- 2009年** (平成21年1月) コカ・コーラウエストジャパン株式会社、近畿コカ・コーラボトリング株式会社および三笠コカ・コーラボトリング株式会社を吸収合併し、商号をコカ・コーラウエスト株式会社へ変更。
- 2013年** (平成25年4月) 南九州コカ・コーラボトリング株式会社と株式交換により経営を統合。
- 2014年** (平成26年1月) 南九州コカ・コーラボトリング株式会社を吸収合併。

グループ会社

“お客さまに1本でも多く飲んでいただきたい”という想いを胸に
それぞれの機能に特化した各社が高品質のサービスを提供しています。

販売機能会社

●コカ・コーラウエストベンディング株式会社

事業内容：自動販売機による清涼飲料水の販売を行っています。

●西日本ビバレッジ株式会社

事業内容：自動販売機による清涼飲料水や食品などの販売および
オフィス用コーヒーの販売を行っています。

●株式会社カディアック

事業内容：関西国際空港内で、自動販売機による清涼飲料水などの
販売を行っています。

●株式会社ウエックス

事業内容：関西エリアでの自動販売機による清涼飲料水の販売を
行っています。

●パシフィックエース西日本株式会社

事業内容：自動販売機による清涼飲料水や食品などの販売を
行っています。

●コカ・コーラウエスト販売機器サービス株式会社

事業内容：機器メンテナンスや品質・衛生管理および設置や撤収、
整備など、販売機器に関わる全般の業務を行っています。

SCM機能会社

●コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社

事業内容：7工場で28の製造ラインを保有し、厳しい品質管理体制の
もと、清涼飲料水の製造を行っています。

●コカ・コーラウエスト大山プロダクツ株式会社

事業内容：ミネラルウォーターを中心とした、コカ・コーラブランドの
清涼飲料水の製造を行っています。

セールスサポート機能会社

●コカ・コーラウエストセールスサポート株式会社

事業内容：拠点内勤業務、事務センターおよびコンタクトセンターの
運営事業を行っています。

その他グループ会社

●コカ・コーラウエストサービス株式会社

事業内容：不動産の賃貸、売買、仲介および管理事業ならびに
保険代理業を行っています。

●キューサイ株式会社

事業内容：ヘルスケア商品、スキンケア商品などの製造・販売を
行っています。

主要製品の紹介

コカ・コーラシステムでは、お客さまの価値観や嗜好の変化、またライフスタイルの多様化に対応し、さまざまなニーズにお応えする製品づくりに取り組んでいます。

現在、8つのカテゴリーで300以上の製品を展開し、お客さまに安心してお飲みいただけるよう高品質な製品の製造・販売をしています。



炭酸飲料

スポーツ飲料

茶系飲料



果実飲料

コーヒー飲料

水

エネルギー飲料

機能性飲料

COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA LIFE、コカ・コーラ ライフ、COCA-COLA ZERO、コカ・コーラ ゼロ、FANTA、ファンタ、SPRITE、スプライト、
AQUARIUS、アクエリアス、綾鷹、あやたか、爽健美茶、そうげんびちや、太陽のマテ茶、からだ巡茶、からだすこやか茶、KOCHAKADEN、紅茶花伝、つむぎ、
MINUTE MADE、ミニッツメイド、Qoo、クー、GEORGIA、ジョージア、森の水だより、I LOHAS、いろは・す、REAL、リアル、BURN、バーンは、The Coca-Cola Company
Limitedの登録商標です。

Schweppes、シュウェッps、は、Atlati Industriesの登録商標です。
CANADADRY、カナダドライ、は、Canada Dry Corporation Limitedの登録商標です。

Glaceau、グラソーは、Energy Brands Inc.の登録商標です。

©The Coca-Cola Company

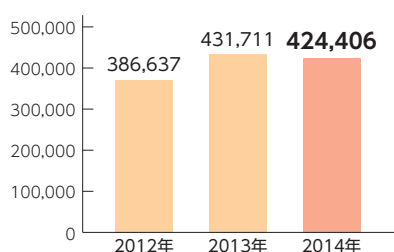
業績の推移(連結)

(単位:百万円)

会計年度	2012年	2013年	2014年
売上高	386,637	431,711	424,406
営業利益	13,463	15,927	11,008
経常利益	13,845	16,606	10,609
当期純利益	6,031	13,625	4,482
総資産	337,348	374,418	337,260
純資産	231,056	257,936	254,150

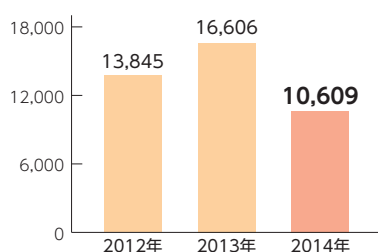
売上高

(単位:百万円)



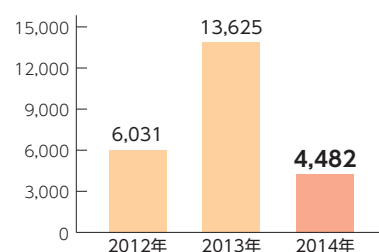
経常利益

(単位:百万円)

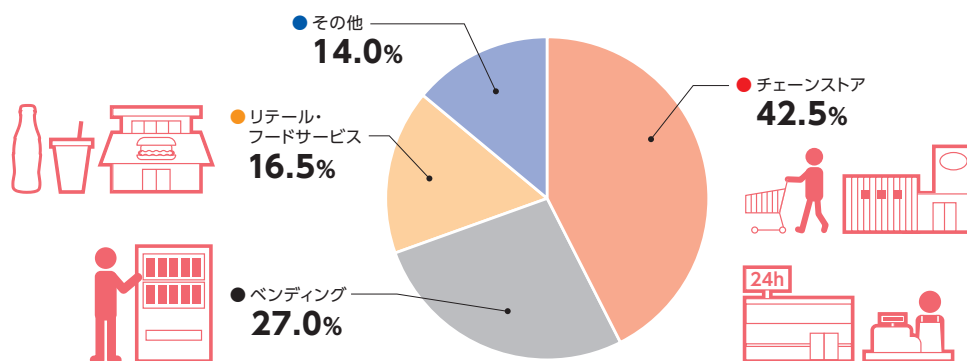


当期純利益

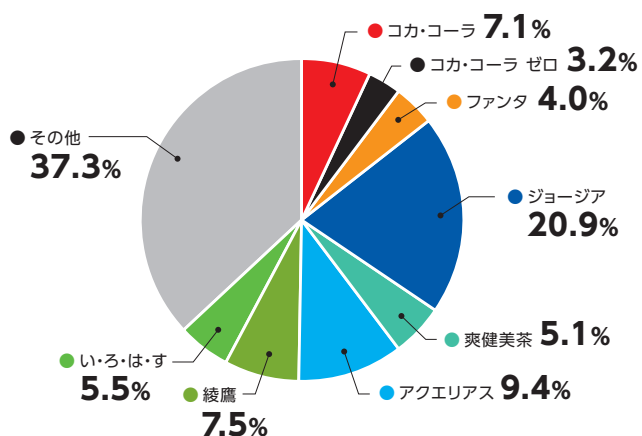
(単位:百万円)



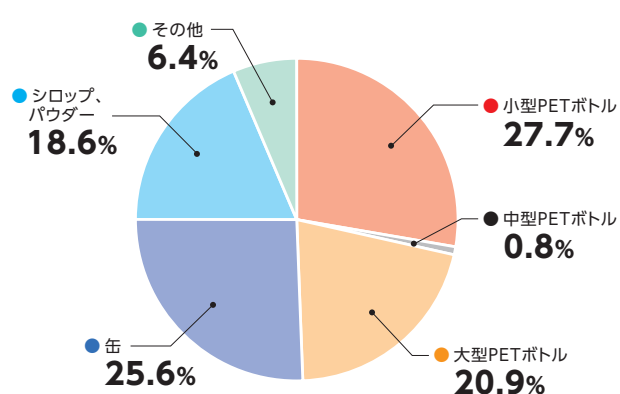
チャネル別 販売数量構成比



ブランド別 販売数量構成比



パッケージ別 販売数量構成比



株式の状況

(2014年12月31日現在)

発行可能株式総数	270,000千株
発行済株式総数	111,125千株
株主数	63,831名

大株主

株主名
株式会社リコー
公益財団法人新技術開発財団
薩摩酒造株式会社
株式会社MCAホールディングス
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)
コカ・コーラ ホールディングズ・ウエストジャパン・インク
三菱重工食品包装機械株式会社
株式会社西日本シティ銀行
東洋製罐グループホールディングス株式会社
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)

株主優待制度のご案内

当社では毎年6月30日現在および12月31日現在で当社と株式を100株以上保有の株主さまに対し、保有株式数に応じて「株主優待ポイント」をそれぞれ同年8月下旬および翌年3月下旬に贈呈いたします。

「株主優待ポイント(1ポイント60円相当)」は、当社ホームページの株主優待サイトや商品カタログの中から、コカ・コーラ社製品詰合せや社会貢献活動への寄付など、好きな商品と交換することができます。

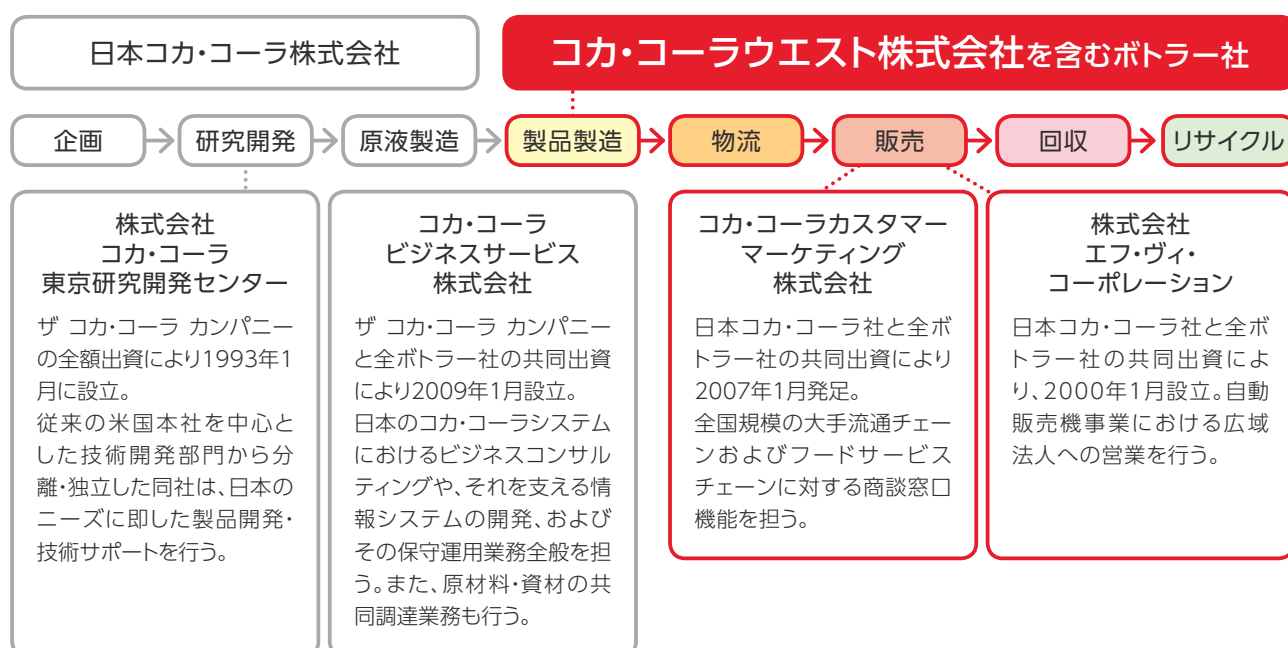
贈呈基準

100株以上 500株未満	株主優待ポイント 30ポイント贈呈
500株以上 1,000株未満	株主優待ポイント 40ポイント贈呈
1,000株以上 5,000株未満	株主優待ポイント 60ポイント贈呈
5,000株以上	株主優待ポイント 120ポイント贈呈

日本のコカ・コーラシステム

企画開発や広告などのマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売を行うボトリング会社(ボトラー社)や関係会社などで構成されています。

コカ・コーラシステムは、システム各社との強いパートナーシップのもと事業活動における取り組みを推進し、生産の効率化、徹底したお客さま志向、市場への迅速な対応、顧客サービスの強化、厳格な品質管理などコカ・コーラシステムの全体最適を図りコカ・コーラビジネスのさらなる成長を目指し協働しています。



第三者意見書



九州大学大学院教授

永田 晃也氏

1959年生

早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
文部科学省科学技術政策研究所総括主任研究官を経て、2010年より現職

専門分野：イノベーション・マネジメント

主要著書：『知的財産マネジメント』

『価値創造システムとしての企業』

本年度のCSRレポートは、本業に深く根ざしたコカ・コーラウエストグループのCSR活動が、経常利益等の業績の伸びを課題とする局面にありながら、なお堅実に維持されており、それが新たな成長の源泉となる可能性を秘めたものであることを窺わせています。レポートの内容を自己評価報告としてみるならば、その記述には概ね客観性が担保されており、わかりやすさや親しみやすさへの配慮は行き届いていますが、誇大な表現などは見受けられません。

CSR活動の実績を具体的な指標に即してみると、方針4「環境との調和」に関連する活動の改善が注目されます。使用エネルギー量は毎年の営業実績に左右されるため、いくつかの項目に総量の減少がみられるとしても、そこから直ちに環境負荷に対する業務プロセスの質的改善を推定することはできません。しかし、エコカー導入台数や環境配慮型自動販売機の設置台数などが顕著に増大していることは、環境負荷を軽減するプロセスに他な

らないものです。こうしたプロセスの改善が、CO₂排出量の着実な減少傾向に反映していると考えられます。

一方、方針2「人間尊重」に関連する指標のうち、働きがいに関する社員の肯定的な回答割合が低下している点が懸念されます。この指標の元となったアンケート調査データを用いて低下の要因分析を行い、早期に対応策を検討することが望まれます。

さらに、コカ・コーラウエストグループにおけるCSR活動の発展を期して、活動全体に関連する課題を提起しておきたいと思います。それは、CSR活動の項目ごとに目標を明示し、毎年のレポートにおける評価の基準とすることです。既に「2020年までにすべての自動販売機をノンフロン化する」といった目標が立てられていますが、こうした目標をCSR活動の多様な項目に亘って設定するのです。目標を中長期と短期に分けて整理できれば、自ずと大きなビジョンを実現するまでのロードマップが描かれるでしょう。また、評価の客観性を一層高めるため、目標はできる限りCSR活動の実績報告に用いられている指標のような数値を使って設定すると良いでしょう。このような取り組みを出発点として、お客さま満足度の向上を目的とした活動のみならず、CSR活動全体のPDCAサイクルを確立することができるのではないのでしょうか。

第三者意見を受けて

CSRレポート2015年度版の刊行にあたり、永田先生から本レポートに対する第三者評価を通じて今後に向けた改善点について貴重なアドバイスをいただくことができました。

今後当社が取り組むべき方向性を明確にする機会ともなり大変感謝をいたしております。

さて、当社グループはウエストビジョンである『お客さまに愛され、株主・地域社会に愛され、社員に愛される会社』づくりを目指して、CSR7つの重点項目に沿ったさまざまな活動を推進しています。

ご助言いただいた各種活動目標の数値化については、今後、中期・短期の目標をより具体化しその達成に向けての活動を鋭意推進してまいります。

また、低下した社員の働きがいについては、日ごろの運営の中で、活力ある会社づくりを通じて対応策を検討し向上させていきたいと考えます。

今後の活動の進化につなげるために、本レポートをお読みいただいたステークホルダーのみなさまからのご意見をお待ちしています。

コカ・コーラウエスト株式会社
取締役 常務執行役員
CSR統括部長

深見 利雄



工場見学案内

コカ・コーラ社製品を多くのみなさまに親しんでいただくため、コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社の4工場で、工場見学を実施しています。「コカ・コーラ」の歴史や環境への取り組みなどを紹介させていただくとともに、実際に製造工程を見ていただきながら製品ができるまでを楽しく体験していただけます。

2014年は約91,500名のみなさまにご来場いただきました。工場見学は、地域のみなさまと直接会話ができる貴重な機会であり、地域社会貢献の重要な活動として取り組んでいます。

マジカルエコラのファクトリーツアー

京都工場エコラ館

ツアーガイド形式により、製品が完成するまでの工程を楽しみながら体験することができ工場見学施設です。



- 工場見学：完全電話予約制
- 料金：無料
- 受入人数：2名～50名



ウェルカムゾーン
ウォータースクリーンがお出迎え。「コカ・コーラ」グッズの販売をしています。



スタディゾーン シアター
みなさまに愛されている「コカ・コーラ」の歴史を、立体映像でお楽しみいただけます。



スタディゾーン タイムトンネル
宇宙船内をイメージしたトンネルの中で、「コカ・コーラ」の歴史を紹介しています。

〈 ツアーのお問い合わせ・お申込みはコチラ 〉

京都工場エコラ館 **駐車場完備**

所在地：京都府久世郡久御山町田井新荒見128

電話：0774-43-5522

受付時間 9:30～11:30 12:30～17:00 (休館日を除く)

休館日：月曜日(ただし、第一月曜日、祝日・振替休日除く)、年末年始および臨時休館日



※「マジカルエコラのファクトリーツアー」は京都工場のみで実施しています。
※工場見学の際は事前にご予約ください。なお、詳細はホームページをご確認ください。

地域に開かれた公園工場

グリーンパークえびの(えびの工場)

製品ができるまでの工場見学だけでなく、コレクションギャラリーやフラワーガーデンなど、ご来場のみなさまにお楽しみいただける施設です。



- 工場見学：完全電話予約制
- 料金：無料
- 受入人数：2名～50名



シアター
コカ・コーラ社製品の製造工程やグリーンパークえびのについて大型スクリーンで紹介しています。



コレクションギャラリー
「コカ・コーラ」が誕生してから現在に至るまでのさまざまなコレクションを展示しています。



フラワーガーデン
広々とした花畑では、春は菜の花、秋はコスモスの花をお楽しみいただけます。

〈 ツアーのお問い合わせ・お申込みはコチラ 〉

グリーンパークえびの **駐車場完備**

所在地：宮崎県えびの市大字東川北字有留1321-1

電話：0984-25-4211

受付時間 9:30～17:00 (休館日を除く)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始および臨時休館日



● その他の工場見学のご案内

本郷工場(広島県)

所在地：広島県三原市下北方一丁目3番1号

電話：0848-86-3600

受付時間 8:30～17:00
(土・日・祝日以外)

休館日：土・日・月・祝日

所要時間：約60分

受入人数：定員80名



基山工場(佐賀県)

所在地：佐賀県三養基郡基山町長野380番地16

電話：0942-92-5251

受付時間 8:30～17:00
(土・日・祝日以外)

休館日：土・日・月・祝日

所要時間：約60分

受入人数：定員80名



みんなの あしたに ハッピーを

Coca-Cola **West**

コカ・コーラウエスト株式会社

(コカ・コーラ指定会社)

お問い合わせ：CSR統括部 CSR推進部

TEL.092-641-8782 FAX.092-632-4304

<http://www.ccwest.co.jp/>



このレポートは、植物油
インキを使用しています。